学校法人 天理大学

令和元年度 事業報告書

1. 法人の概要

法人事務局	〒632-0035 奈良県天理市守目堂町213-4 https://gh.tenri-u.ac.jp/
天理大学	〒632-8510 奈良県天理市杣之内町1050 https://www.tenri-u.ac.jp/
天理図書館	〒632-8577 奈良県天理市杣之内町1050 https://www.tcl.gr.jp/
おやさと研究所	〒632-8510 奈良県天理市杣之内町1050 https://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/
天理参考館	〒632-8540 奈良県天理市守目堂町250 https://www.sankokan.jp/
天理高等学校（第一部）	〒632-8585 奈良県天理市杣之内町1260 https://www.tenri-h.ed.jp/
天理高等学校（第二部）	〒632-8585 奈良県天理市杣之内町1260 https://www.tenri-h.ed.jp/2bu/
天理中学校	〒632-0032 奈良県天理市杣之内町827 https://www.tenri-j.ed.jp/
天理小学校	〒632-0032 奈良県天理市杣之内町80 https://www.tenri-e.ed.jp/
天理幼稚園	〒632-0015 奈良県天理市三島町470-1 https://www.tenri-k.ed.jp/

(1) 建学の精神

親神（おやがみ）は、「陽気ぐらし」を共に楽しみたいと思召されて、人間世界を創造された。

教祖（おやさま）は、この元なる親神（おやがみ）の存在と、世界一列きょうだいの真実を明かし、「ひながた」の道を通して、互いにたすけあう生き方を示された。

本法人は、教祖（おやさま）の教えに基づいて、「陽気ぐらし」世界建設に寄与する人材の養成を使命とする。

（2）学校法人の沿革

明治33年　天理教校開校
明治41年　私立天理中学校開校（大正8年天理中学校に改称）
大正 9年　天理女学校開校
大正12年　天理女学校を高等女学校令による天理高等女学校に改組・改称
大正14年　天理幼稚園、天理尋常小学校、各種学校令による天理外国語学校開校
天理図書館を天理外国語学校内に設置
昭和 2年　財団法人天理外国語学校設立、専門学校令による天理外国語学校開校
昭和 3年　専門学校令による天理外国語学校（男子）と天理女子学院（女子）に改組・改称
天理中等学校（定時制）開校（昭和18年天理中学校第二部に統合）
昭和 5年　海外事情参考品室（現天理大学附属天理参考館）を天理外国語学校内に設置
昭和10年　財団法人天理教いちれつ会に改組、天理第二中学校開校
昭和15年　天理女子学院を専門学校令による天理女子専門学校に改組・改称
昭和16年　天理夜間女学校開校（昭和19年天理高等女学校第二部に改組）
昭和17年　天理教亜細亜文化研究所（現天理大学附属おやさと研究所）設置
昭和19年　天理外国語学校を天理語学専門学校に、また天理女子専門学校を天理女子語学専門学校にそれぞれ改組・改称（昭和22年統合、昭和26年廃校）
昭和22年　新制天理中学校開校
昭和23年　財団法人天理語学専門学校に改組、新制天理高等学校（第一部・第二部）開校
昭和24年　財団法人天理大学に改称
新制天理大学開学
（文学部、昭和27年外国語学部設置（平成12年廃止）、昭和30年体育学部設置）
昭和25年　天理大学短期大学部設置（昭和34年廃止）
昭和26年　私立学校法により学校法人天理大学に組織変更
昭和33年　天理大学選科日本語科設置（昭和56年別科日本語課程、外国語課程に改組・改称、外国語課程は平成4年度から募集停止、日本語課程は平成6年度から募集停止）
昭和38年　天理准看護婦養成所開設（平成13年廃止）
平成 4年　天理大学人間学部（宗教学科、人間関係学科）、国際文化学部（日本学科、朝鮮学科、中国学科、タイ学科、インドネシア学科、英米学科、ドイツ学科、フランス学科、ロシア学科、イスパニア学科、ブラジル学科（平成15年募集停止、平成21年廃止））、文学部（歴史文化学科）設置
平成12年　天理高等学校第二部に介護福祉科設置（平成24年廃止）
平成15年　天理大学国際文化学部アジア学科、ヨーロッパ・アメリカ学科設置（平成22年募集停止、平成29年廃止）
平成16年　天理大学大学院臨床人間学研究科臨床心理学専攻修士課程設置
平成22年　天理大学国際学部外国語学科、地域文化学科設置
平成27年　天理大学大学院体育学研究科体育学専攻修士課程設置
平成29年　天理大学大学院宗教文化研究科宗教文化研究専攻修士課程設置

（3）設置する学校・学部・学科の名称および入学定員と学生数（令和元年5月1日現在）

【天理大学】

学部	学科	入学定員	収容定員	学生数
人間学部	宗教学科	40	160	136
	人間関係学科	80	320	334
	計	120	480	470
文学部	国文学国語学科	40	160	169
	歴史文化学科	50	200	173
	計	90	360	342
国際学部	外国語学科	165	675	638
	地域文化学科	195	765	766
	計	360	1,440	1,404
体育学部	体育学科	200	800	932
合計		770	3,080	3,148

【天理大学大学院】

研究科	入学定員	収容定員	学生数
臨床人間学研究科	8	16	16
体育学研究科	12	24	22
宗教文化研究科	6	12	1
合計	26	52	39

【天理高等学校】

学校名	課程・学科	入学定員	収容定員	学生数
天理高等学校（第一部）	全日制普通科	※ 520	1,560	1,234
天理高等学校（第二部）	定時制普通科	※ 144	576	387
合計		664	2,136	1,621

※全日制課程の募集人員は 440 名、定時制課程の募集人員は 108 名

【天理中学校】【天理小学校】【天理幼稚園】

学校名	入学定員	収容定員	学生数
天理中学校	※ 200	600	466
天理小学校	※ 125	750	561
天理幼稚園	50	200	109

※天理中学校の募集人員は 160 名、天理小学校の募集人員は約 110 名

以上、大学から幼稚園までの学生数の合計：　５，９４４名

(4) 役員（理事・監事）の概要（令和２年3月31日現在）

理事定員数 13～15 名　現員数 14 名、監事定員数 2～3 名　現員数 2 名

役職名	氏名	現職	就任年月日
理事長（常勤）	深　谷　善太郎	学校法人天理大学 理事長	2016. 01. 12
専務理事（常勤）	前　川　喜太郎	学校法人天理大学 専務理事	2016. 03. 26
常務理事（常勤）	山　田　常　則	学校法人天理大学 常務理事	1998. 05. 14
常務理事（常勤）	濵　口　義　英	学校法人天理大学 常務理事	2016. 03. 26
常務理事（常勤）	鈴　木　　洋	学校法人天理大学 常務理事	2016. 03. 26
理事（常勤）	永　尾　教　昭	天理大学 学長	2015. 04. 02
理事（常勤）	竹　森　博　志	天理高等学校 校長	2016. 03. 26
理事（常勤）	東馬場　郁　生	天理大学 副学長	2017. 04. 01
理事（常勤）	東　井　光　則	天理図書館 館長	2018. 03. 27
理事（常勤）	春　野　　享	天理参考館 館長	2016. 03. 26
理事（非常勤）	田　中　善　吉	宗教法人天理教教会本部 海外部長	2016. 03. 26
理事（非常勤）	前　川　昭　治		2005. 04. 01
理事（非常勤）	塩　澤　好　久	株式会社シオザワ 代表取締役社長	2009. 11. 06
理事（非常勤）	前　田　正一郎	株式会社イドタフレスコ 取締役会長	2011. 04. 01
監事（非常勤）	今　村　伊太郎	社会福祉法人まほろば 理事	2016. 06. 01
監事（非常勤）	福　富　修　一	弁護士	2005. 06. 02

(5) 評議員の概要（令和２年3月31日現在）

評議員定員数 31 名　現員数 31 名

役職名	氏名	就任年月日
評議員	島　　幹　典	2016. 03. 26
評議員	篠　森　靖　治	1999. 10. 25
評議員	上　田　恵　美	2014. 04. 01
評議員	安　藤　勇　作	2003. 12. 01
評議員	佐　藤　真　一	2014. 10. 25
評議員	西　浦　三　太	2016. 03. 26
評議員	濵　口　義　英	1993. 10. 26
評議員	平　野　知　司	2004. 04. 02
評議員	山　田　常　則	1998. 05. 14
評議員	山　本　史　朗	2016. 03. 26
評議員	深　谷　善太郎	2016. 03. 26
評議員	足　立　正　次	2008. 10. 25
評議員	板　倉　　望	2017. 10. 25
評議員	梅　谷　大　一	2017. 10. 25
評議員	清　瀬　善　敬	2016. 03. 26
評議員	澤　田　善　治	2017. 10. 25

役職名	氏名	就任年月日
評議員	鈴　木　　光	2005. 10. 25
評議員	鈴　木　　洋	2002. 10. 25
評議員	高　橋　光　男	2009. 11. 06
評議員	高　橋　道　一	2008. 10. 25
評議員	堀　内　みどり	2019. 07. 02
評議員	前　川　喜太郎	2009. 11. 06
評議員	増　野　正　志	2017. 10. 25
評議員	松　田　理　治	2017. 10. 25
評議員	山　中　秀　夫	2017. 10. 25
評議員	井　上　昭　洋	2017. 10. 25
評議員	岡　田　龍　樹	2017. 10. 25
評議員	岡　田　正　彦	2017. 10. 25
評議員	城　内　安　善	2016. 04. 01
評議員	中　田　　一	2008. 10. 25
評議員	前　川　昭　治	2002. 10. 25

（6）教職員の概要（令和元年5月1日現在）

施設	役員	教員		職員		計
		専任	兼任	専任	兼任	
法人事務局	17			36	19	72
天理大学		134	196	84	54	468
天理図書館				30	12	42
おやさと研究所		6		1	2	9
天理参考館				23	2	25
天理高等学校（第一部）		79	2	28	96	205
天理高等学校（第二部）		29	3	21	46	99
天理中学校		29	3	4	15	51
天理小学校		31	5	5	2	43
天理幼稚園		14		2	2	18
合計	17	322	209	234	250	1,032

2. 事業の概要

学校法人天理大学は、教育基本法および学校教育法に従い、併せて天理教の信仰に基づく宗教教育を行うことを目的として設立されました。本法人は、この目的を達成するために、「天理大学」「天理高等学校」「天理中学校」「天理小学校」「天理幼稚園」を設置し、天理教の教義に基づき、「陽気ぐらし世界」の実現に寄与することのできる人材の育成を目指す“信条教育”を柱とする学校運営に努めています。

この信条教育の徹底を図るために、教職員全員を対象とした「信条教育講習会」を毎年開催しています。令和元（2019）年度は、稲葉美徳氏（天理教大美町分教会長）を講師として、学校別に 2 回開催しました。また、教職員の指針として策定した「めざす教職員像」のアンケートを全教職員に実施し、一人ひとりが常に信条教育を意識した取り組みがなされているかの自己点検を行い、信条教育発揚の一助としました。

教育現場で勤める教職員にとっては、研修が何より大切であることは言うまでもありません。各学校・園においては、それぞれの実情に応じて研修会を実施していますが、法人としても新任者研修会、現職研修、管理職研修会、施設訪問研修、スポーツ指導者講習会を開催し、教職員の資質向上を目指しました。

学校運営検討委員会では、「天理高等学校」「天理中学校」「天理小学校」「天理幼稚園」の教育目標達成を目指し、保護者や社会から信頼される学校づくりを進めるため、「学校評価」などを活用して、法人と学校の連携を図るとともに、課題などを共有し学校運営の継続的な改善・向上に努めました。

学校施設は学生・生徒・児童などが一日の大半を過ごす学習・生活の場であり、その安全は極めて重要です。令和元（2019）年度の主な事業としては、天理高等学校本校舎の耐震補強工事を実施しました。

キャンパス整備については、従来から重要性また緊急性の高いものから計画的に取り組んでいます。令和元（2019）年度は、施設・設備面の主なものとして、天理大学杣之内キャンパスでは、研究棟の外壁・屋根塗装（第 3 期工事）、CALL 教室の機器入替、また田井庄キャンパス（体育学部キャンパス）では、総合体育館トレーニングルームの機器入替、親里ホッケー場の人工芝更新（第 1 期工事）などを実施しました。天理参考館では、資料管理システムの導入、天理高等学校では、PC 第 1 教室の機器更新、プールの改修およびプール用ボイラーの更新、みのり寮分寮の改修、天理教語学院南側塀の改修などを実施しました。天理小学校では、プール塀の更新を実施しました。

新型コロナウイルス感染症拡大抑制のため、3 月は各施設で臨時休校や行事の開催中止などの措置をとりました。

以下、令和元（2019）年度の各施設の主な事業内容を報告します。

【天理大学】

大学改革のスピードを加速させるために、学長、副学長、学部長、事務局長、事務部長による「大学運営会議」を設置しましたが、文部科学省の特別補助金採択などに向けた体制整備などを行い、関係事務課長を含めた拡大大学運営会議において積極的な要件対応に併せて改革を進め、「私立大学等総合改革支援事業」（タイプ 1 およびタイプ 4）の申請を行いました。

本学が選定された文部科学省の「平成 30 年度私立大学研究ブランディング事業」においては、「天理スポーツブランドを活かした地域のスポーツ・健康づくり研究拠点の形成」をテーマに地元天理市と連携し、スポーツ健康に関する住民調査をはじめ、天理市民を対象とした柔道・ラグビー・

野球などのスポーツイベントの開催、教職員を対象とした「ゆるラン教室」の実施など、様々な活動を展開しました。

外部資金獲得の一方の柱として、寄付金募集の推進を図りました。平成30（2018）年度に開設された「天理大学まほろば募金」では、創立100周年事業推進、奨学金事業推進、グローバル化推進、施設設備整備推進、課外活動推進の各項目に対する使途指定寄付金枠を設けています。高額寄付者への顕彰制度の充実も図り、寄付金額に応じ「名誉校友」「特別校友」「貢献校友」の称号（記）を授与し、4月1日には研究棟玄関ホールに顕彰のための銘板を設置しました。

令和元（2019）年度は、昭和24（1949）年に本学が新制天理大学として開学して70周年にあたります。改元により平成から令和へと新しい時代を迎えるとともに、本学が新制大学 70 周年を迎えたことを記念し、10 月 26 日に講演会「令和改元と新時代の教育：新制天理大学70周年によせて」を開催しました。講演会では、本学の外部評価委員でもある亀山郁夫氏（名古屋外国語大学学長）と所功氏（皇室研究専門家 京都産業大学名誉教授）が、約 100 名の聴衆を前に講演を行いました。亀山氏は、研究と教育に携わってきたなかで感じることとして、社会を取り巻く環境が急速にそして大きく変化してきていると示唆した上で、「人生100年時代に突入するなか、AIの進展が進み、ユースレスクラスの出現が予言される社会で、人としての知性と感性の劣化を危惧している」と指摘しました。また、人間が人間として何が重要なのか、真の思考力と共感力を涵養することについて、教育を通して考えていきたいと述べました。所氏は、「元号の出典と『令和』改元の意義」と題し講演を行いました。講演の冒頭に自身が友人と学生時代に天理を訪れた際、宿泊で天理教にお世話になったことや恩師が晩年を天理大学教授として過ごされたことを紹介し、天理とは不思議なご縁があると語りました。その後、皇族の方々のお名前や元号の出典や意味・字義をわかりやすく説明しました。特に万葉集を出典とする新元号「令和」に関しては、「令は形が整って麗しいという意味であり、麗しい和の精神を世界に広めていくことが次代の日本人の務めである」と語りました。

2025 年の創立 100 周年に向けて必要な改革を進める際の柱として公表した「天理大学ビジョン2025」の具体化を目指して 2018 年 12 月に設置された「『天理大学ビジョン 2025』推進会議」では、全体会議と 4 つの分科会「第 1 分科会（教学制度および研究支援について）、第 2 分科会（キャンパス整備プランについて）、第 3 分科会（奨学金制度の再検討について）、第 4 分科会（体育系クラブ・アスリート学生担当、他『スポーツ局』について）」において現状確認や具体的計画を検討しました。2019 年 3 月の教職員会議において各分科会より公表した「中間まとめ」を土台に集中審議を行ってきましたが、分科会の内容をもとに、令和2（2020）年度は新たな専門部会や既存の委員会などにおいて、ビジョンのより具体的な計画、立案、実施を図る予定です。

平成30（2018）年度より新設された「宗教主事」（1名）は、学内の天理教行事（おつとめまなび）や伝道実習などに携わって信条教育の充実を図っていますが、令和2（2020）年度はさらに日常の学生生活における信仰上の相談に応じるなど、様々な指導やサポートも積極的に行うことを予定しています。

令和元（2019）年度入学生より施行した総合教育のカリキュラムに対応すべく、「教育課程編成・実施の方針」（CP：カリキュラム・ポリシー）の改正をしました。新入生オリエンテーションで各学科・専攻の3ポリシー、カリキュラムツリー・マップの冊子を作成し周知しました。

平成30（2018）年度に引き続き、在学生（2・4年次生）を対象とした学修行動調査、入学時アンケートおよび卒業生アンケートを行いました。また、11 月から 12 月には文部科学省の全国学生調査（試行実施）に参加するなど、学習成果可視化のための取り組みを進めました。

自己点検評価活動の一環として、5 月に第 2 回外部評価委員会を開催し、委員から本学の教育研究などの向上に資する提言を受けて改善に取り組みました。その他にも学内各セクションで自己点

検・評価簡易チェックシートによる点検を実施し、自己点検評価を進めるとともに、改善点の再認識を行い、PDCA サイクルの実施を促しています。併せて、企画評価会議が中心となり、自己点検・評価の各基準の指針となる方針についても改正（進路支援の基本方針）、未設定の方針（教育研究等環境に関する方針、大学運営に関する方針、中・長期の財政計画）の策定を促し改善に努めました。

本学の少人数教育の伝統を生かして、難関の外交官専門職試験突破を目指しつつ、建学の精神を世界で体現できる人材を育成することを目的とする「外交官養成プロジェクト」が 2018 年に始動し、副学長主導（ディレクター）のもと、8 名の運営委員（教員 5 名、職員 3 名）により「外交官養成セミナー」を開催しました。令和元（2019）年度募集では 10 名の学生が選抜され、言語別学習会や国際関係勉強会、現役・元外交官や有識者による講演会を受講するなど、課外活動として様々な活動を行っています。夏に東京合宿を行い、外務省訪問、外交史料館見学、本学出身の外務省事務官などとの懇談、JICA や国連機関の見学など、外交官を目指す上での見聞を広め、モチベーションを大いに高めました。これらの活動は、同セミナー受講生たちが編集するニュースレター（「TENRI UNIVERSITY DIPLOMAT TRAINING SEMINAR NEWSLETTER」として VOL.6 まで発行）において公表しています。

外交官養成セミナー開校式

外交官養成セミナー特別講義

＜教育・研究＞

令和元（2019）年度の教員免許状更新講習は、奈良教育大学が開講申請者となり、本学は協力校として、8 月 20 日に体育学部キャンパスで「保健体育科における教科指導」の選択領域 1 講座、8 月 21 日に杣之内キャンパスで「学校教育の諸課題とカウンセリング」「古文を面白くさせる『読み』」および「英語の多様性と国際性：世界語としての英語学習法（語彙と音声指導を中心に）」の選択領域 3 講座を開講しました。

「社会教育主事講習等規程の一部を改正する省令」が 2020 年 4 月 1 日から施行されることに伴い、社会教育主事養成課程の一部を変更する届出を文科省に提出しました。令和元（2019）年度に入学した人間学部人間関係学科生涯教育専攻生から、養成課程修了者は「社会教育士」と称することができるようになりました。

総合教育科目の中のキャリア科目では、将来のキャリアを考えるために、それぞれの分野の第一線で活躍する多くの外部講師を招き、当該分野の魅力を語っていただきました。「キャリアデザイン 2（海外に目を開く）」では、海外で活躍している企業家、外交官などの方々を招き、実務家としての経験をもとにした講義を行い、学生の就活支援にも力を入れています。令和元（2019）年度は、本学客員教授を中心に 7 名のゲストスピーカーに講義をしていただきました。第 1 回は 5 月 13 日に大澤文護氏（本学客員教授　千葉科学大学危機管理学部教授　元毎日新聞社ソウル支局長）、第 2 回は 5 月 20 日に杉原佳堯氏（本学客員教授　グーグル合同会社執行役員）、第 3 回は 6 月 3 日に清水麗氏（麗澤大学外国語学部教授　公益社団法人 MORIUMIUS コーディネーター）、第 4 回は 6 月 17

日に島田久仁彦氏（本学客員教授 株式会社 KS International Strategies 代表取締役社長 国際紛争調停人）、第 5 回は 6 月 24 日に中村義博氏（本学客員教授 元駐ウルグアイ日本大使 千葉経済大学非常勤講師）、第 6 回は 7 月 1 日にムティアラ・サリ・パキー氏（古河電池株式会社コーポレート本部）、第 7 回は 7 月 8 日に古関和典氏（株式会社 JTB 外商部 内閣府・地域活性化伝道師）に、それぞれご登壇いただきました。

人間学部宗教学科では、毎年春・秋の 2 回、特別講義を開催しています。秋学期の特別講義では、10 月 26 日に、山中弘氏（筑波大学名誉・特命教授 日本宗教学会会長）に講義をしていただきました。特別講義のタイトルは「現代社会と宗教変容」でした。宗教研究全般の主要なテーマである「通過儀礼」「祭礼」「巡礼」といった現象が、今日の日本社会においていかなる変容を遂げているのかを、フィールドワークの成果を交えながら、具体的に分かりやすく解説していただきました。宗教学科の学生にとっては、特に天理教のような宗教のあり方とは異なった、「軽い宗教」の出現についての山中氏の議論は、とても興味深く感じられたようでした。

文学部国文学国語学科では、10 月 17 日に昨年に続き、中江有里氏（本学客員教授 女優 作家）による、「ある私小説をめぐって―ハンセン病文学を読んで感じたこと」と題した国文学科国語学科特別講演を開催しました。中江氏は、まずハンセン病についての正しい理解を深めてもらおうと、最近取り上げられたハンセン病についてのニュースの紹介、DVD 上映を行い、続いて、自身が「ハンセン病」を知るきっかけになった北条民雄氏の著書「いのちの初夜」を題材に講演を進めました。北条民雄の半生を紐解きながら、小説の主人公を通じて描かれた著者の苦悩について解説した上で、ハンセン病に対する誤解や偏見は「無知が差別を生んだ」と指摘しました。また、「北条が遺したハンセン病文学は、人間が人間を差別、区別した過去の過ちを作品に遺した。ハンセン病文学を見直すことは、現代にとっても必要ではないか。」と述べました。講演後の質疑応答では、ハンセン病文学について積極的に質問する学生の姿が見られました。

国際学部外国語学科中国語専攻では、中国語修得の実践として毎年中国語コンテストに出場しています。5 月 19 日に「第 18 回『漢語橋』世界大学生中国語コンテスト西日本地区予選大会」が、関西外国語大学御殿山キャンパス・グローバルタウン谷本ホールで開催され、松永好徳（中国語専攻 4 年次生）が特等賞（1 位）に輝きました。この大会は中国語のスピーチに加え、パフォーマンスと知識テストの総合点で競われます。松永は 1 年次生の時からスピーチコンテストなどで優勝を重ね、3 年次生では交換留学を経験し、スピーチには絶対の自信をもって本大会に臨みました。得意なスピーチはもちろん、知識テストでも力を存分に発揮し、世界大会への出場権を獲得しました。本学からの世界大会出場は、3 年連続 7 回目となります。

「漢語橋世界大学生中国語コンテスト西日本大会」特等賞

国際学部外国語学科スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻では、12 月 11 日に外尾悦郎氏（本学客員教授 スペイン・バルセロナのサグラダ・ファミリア聖堂主任彫刻家）の特別講演会「時の中の自分」を、九号棟（ふるさと会館）で開催しました。外尾氏は講演冒頭にテーマである「時の中の自分」について言及し、「時間も空間と同じように自分が過ぎていくもの」と、自らの考えを述べました。哲学的に語られた冒頭の言葉を紐解くように、「サグラダ・ファミリア」の建築家であるアントニオ・ガウディを過去の人間とせず、「ガウディの生きた時代に考えを合わせ寄り添うことで、ガウディが見ていた方向（未来）が見えてくる」と、時に対する概念の捉え方がガウディの意思を受け継ぐ上で重要になることを示唆しました。また、「サグラダ・ファミリア」の美しい彫刻をスラ

イドに投影し、ひとつひとつの作品の意図や建築に対する考え方を述べながら、「ガウディの考えを知るために、しっかりと資料を調べ、条件を調べ、寄り添いながら仕事をしていくことで、答えは向こうからやってくる」と語りました。講演後の質疑応答では、スペイン語で質問を行う学生や、日本とスペインの文化の違いについて問う学生に対して、自身の経験を織り交ぜながら、ひとつひとつ丁寧に答えていました。

国際学部地域文化学科日本研究コースでは、11 月 17 日に行われた「第 44 回関西地区外国人留学生による日本語弁論大会」（主催 : 関西外国語大学文化会国際親善部）に、日本研究コース 2 年次生のディミトリ・アディマス・パルグナ・マイトレア（インドネシア出身）が、「自国に取り入れたい日本のいいところ」をテーマに出場し優勝しました。この大会は、関西地区の大学・短期大学に在学している留学生を対象に開催され、原稿による予選審査通過者 10 名によって行われました。登壇したディミトリは、日本の「おもてなし」について、自身の経験も踏まえ話しました。日本のサービスの「いらっしゃいませ」や「またお越しくださいませ」など、笑顔でお客様に声をかける姿や丁寧で親切な接客態度がとても温かく印象に残ったことを、流暢な日本語で観客に語りかけるように伝えました。

「第 44 回関西地区外国人留学生による日本語弁論大会」優勝

大学院体育学研究科では、12 月 21、22 日に、常磐大学見和（水戸）キャンパスで開催された「身体運動文化学会第 24 回大会」において、結城倫弘（体育学研究科体育学専攻 2 年次生）が、「若手研究者奨励賞」を受賞しました。身体運動文化学会は、スポーツや武道、舞踊、芸能、祭りなどの身体運動を中核とする活動を別々のものとしてではなく、また単なる身体運動としてではなく、身体運動文化として捉え直し、新たなる価値を見出しながら学問研究を進めることを趣旨として設立された学会です。学会大会での研究発表における中から優秀なものに対して、「若手研究者奨励賞」を贈呈しています。本学体育学部在籍時に剣道部に所属していた結城は、大学院に進学後、近現代日本における西洋剣術導入に関する研究を主なテーマとしています。

学外研究助成などの活用としては、令和元（2019）年度の科学研究費助成事業の採択件数は継続分を含めて研究代表者分が 26 件、研究分担者分が 25 件で合計 51 件となりました。

JAXA（宇宙航空研究開発機構）の研究公募に、令和元（2019）年度も 1 件の採択がありました。

FD 活動においては、平成 30（2018）年度に引き続き、FD オープンクラスウィークに取り組み、すべての教員による授業公開と参観を実施することができました。FD 研修会は学部単位（専任教員参加必須）で 6 月、7 月、1 月に実施されました。また、「学生による授業評価」アンケートは、全学部・研究科を対象として実施しました。アンケートで得られたデータをもとに、ベストティーチャー表彰が行われています。

研究倫理教育に関しては、11 月に外部講師を招き「2019 年度 天理大学 研究倫理教育研修会（公的研究費に係るコンプライアンス研修を兼ねる）」を開催しました。参加対象は教員（非常勤講師を含む）、公的研究費等運営・管理責任者および事務処理担当者、本法人管内専任教職員希望者、本学大学院生が事後研修も含め受講しました。

TA を対象に、各期の授業開始前に各 1 回、教員による研修を開催しました。

CALL 教室に関しては、パソコン機器などの更新作業を実施しました。CALL 教室での教員のアシスタントである SA に対して各期の授業開始前の入替時に研修を実施しています。

情報ライブラリーに関しては、パソコンおよびプリンターの更新作業を実施しました。情報ライブラリーU テラス活用推進のため配置されているピア・サポーターに対しても、各期 1 回、研修を

実施しています。

学術刊行物については、「天理大学学報」第 71 巻第 1 号～第 3 号（通巻第 252 輯～254 輯）他をはじめ、各研究室などで「天理大学生涯教育研究」第 24 号、「天理大学社会福祉学研究室紀要」第 22 号、「山邊道」第 60 号、「史文」第 21 号、「古事」第 24 号、「中国文化研究」第 36 号 、「総合教育研究センター紀要 」第 17 号などを発行しました。

＜国際交流＞

令和元（2019）年度は、海外の 5 大学・機関と新たな大学間協定を締結しました。新規協定校は、スペインのサラマンカ大学（4 月 12 日付）、アメリカのウエストヴァージニア高等教育政策委員会（4 月 15 日付）、フィリピンのエンデラン・カレッジ（7 月 1 日付）、韓国の東国大学校（9 月 19 日付）、ベトナムのダナン総合大学（3 月 24 日付）で、交換留学制度を含む学生交流を令和 2（2020）年度から開始する予定です。令和元（2019）年度末時点、海外交流協定校数は 24 カ国・地域 51 大学 2 機関となりました。

学生交流については、15 カ国・地域 23 大学の協定校およびパリとニューヨークの分校から 45 名の短期（交換）留学生を受け入れ、本学からは 16 カ国・地域 25 大学の協定校へ交換留学生を 43 名、認定留学生を 29 名、計 72 名の学生を派遣しました。各種海外研修プログラムについては、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響を受け、秋学期に予定されていた英米語専攻の海外語学実習（アメリカ）、地域文化学科の異文化実習（ロシア、ウクライナ、バルト諸国）、国際参加プロジェクト（タイ、ラオス）の 3 つの研修が中止となりましたが、その他の海外語学実習（中国、台湾、韓国）、異文化実習（韓国）、国際スポーツ交流実習（ドイツ）は実施に至り、94 名が参加しました。また、海外インターンシップ制度により、コロンビアへ 2 名、アメリカ・ニューヨークへ 1 名、韓国へ 1 名、海外スポーツ型インターンシップとしてスイス・フリブールへ 4 名、計 8 名の研修学生を派遣しました。

ドイツでの国際スポーツ交流実習

第 32 回目の開催となった夏期日本語講座（開催期間：7 月 8 日～20 日）については、11 カ国・地域の 12 の協定校と他 1 大学 2 機関から 79 名の受講生を迎えて開催しました。授業は日本語の習得レベルに合わせた 3 つのクラスに分けて実施され、日本人学生カウンセラー約 40 名がサポートに当たり、授業以外の生活面でもサポートを行うなど、学生同士の交流を深めました。

「iCAFé（アイ・カフェ）」については、留学生と日本人学生の出会いの場として連日賑わいを見せており、英語をはじめとする外国語会話力向上に貢献しています。令和元（2019）年度はベトナム語と日本語が加わった 11 言語 38 名の言語チューターを配置して、延べ 1,150 名の日本人学生や留学生が外国語での会話指導を受けました。

また、天理市との共催で立ち上げた「Tenri English Village（天理英語村）」については、小学校低学年向けと高学年向けの二つのこどもクラス、中学生以上を対象とした初級と中級の計 4 クラスを隔週開催し、延べ 498 名の一般参加がありました。

＜就職支援＞

令和元（2019）年度は、3 年次生プレガイダンスを 4 月から 5 月にかけて初めて開催し、インターンシップの重要性やグループディスカッション対策などの内容を踏まえ、6 月以降に行う基幹ガイダンスへの流れを作りました。また、低年次生対象としても、インターンシップへの参加や職業

観育成を目的に支援を進めました。

ガイダンスなど開催行事への連絡周知については、平成 30（2018）年度から構築したクラス担任やゼミ担当者を経由して学生に周知するシステムを利用し、教職協働の活動をさらに推進しました。また、個人面談期間を 10 月から 2 月までの 5 カ月にわたり実施して、より多くの学生と面談を重ねました。

例年の学内合同業界研究セミナーは、2 月に 1 回の開催に絞り、通年採用を念頭に置いて年間を通して個別で実施する学内説明会・選考会を実施しました。

合同業界研究セミナー

初の試みとして、3 年次生を対象として 11 月から 2 月にかけて全 12 回の選抜特訓講座を、キャリアテラスを会場に開催しました。20 名の自薦学生が集まり、厳しい熱のこもった講義を最後まで受講し、修了証を手にしました。

1・2 年次生対象の進路・就職ガイダンスを、5 月と 7 月に開催しました。2 年次生は、年明けの 1 月に SPI 筆記試験と職業適性検査を実施し、約 7 割の学生が受験しました。

長年開講してきた「就職支援・資格講座」を「キャリアアップ講座」と名称変更し、開講講座も見直しリニューアルしました。また、「就職対策集中講座」も「就活レベルアップ講座」と名称変更し、内容もより実践に即したものに改めました。

＜学生支援＞

「天理大学特別支援の基本方針」により、外部研修へ積極的に参加し、ノートテイクなどのサポート充実を図るためにサポート学生との振り返りの場を設けました。

修学支援新制度説明会

6 月 11 日、14 日に、「交通マナーおよび SNS 犯罪に関する講習会」を学生団体（部・同好会・学科会・寮）の役員および新入生を対象として、天理警察署交通課と生活安全課の署員を講師に招き開催しました。また、6 月 26 日、27 日に「事故防止講習会」として、本学看護師による熱中症対策の講演やミニアンキッドを用いた心肺蘇生法、AED を使用した実技講習を実施しました。

「天理大学大学院研究奨励奨学金規程」による奨学金を、春学期に 2 年次生 5 名、秋学期に 1 年次生 4 名へ授与しました。

2020 年 4 月から実施される「高等教育の修学支援新制度」における 1～3 年次生（在学予約）の申し込み者は、829 名でした。

信条教育の一環として開催している「信仰フォーラム」については、7 月にアレハンドロ・グティエレス氏（天理高等学校英語科講師）、12 月に相川弘史氏（外務省北米局第一課事務官）を講師に招き講演していただきました。

＜入試＞

入試広報活動については、各地区の入試相談会や高等学校内ガイダンスの他、例年どおり、7 月、8 月、9 月のオープンキャンパス（3 回）、11 月の大学祭に合わせた入試相談会を実施しました。3 月の「春のオープンキャンパス」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「Web オープン

キャンパス」と題し、本学入試情報サイト「Stories」に特設サイトを設けて情報提供を行いました。5 月 15 日には、オープンスクールを主に天理高等学校、天理教校学園高等学校のみを対象としたミニオープンキャンパスとして実施しました。

広報活動については、「進学事典」（リクルート）「Benesse マナビジョンブック」「マイナビ進学ガイド」「進路のミカタブック」および「進路徹底研究」などの雑誌関係で 34 件、また「Benesse マナビジョン」「スタディサプリ」「マイナビ進学」および「Go to school.com」など Web 関連で 15 件、さらに、新聞関連でオープンキャンパス企画や入試案内を掲載するなど、様々なメディアを通じて広報活動を行いました。

天理教教会本部月次祭が執り行われる毎月 26 日に、天理本通りにある「てんだりーcolors」において、継続的に入試相談会を実施しました。

なお、令和 3（2021）年度入試の大幅な改革を控えた令和元（2019）年度は、受験生に混乱を起こさないように入試制度の改革は行いませんでした。

Web オープンキャンパス

ミニオープンキャンパス

＜高大連携＞

これまで天理高等学校および天理教校学園高等学校と様々な場面で連携を培ってきましたが、より一層の連携を図るため引き続き定期的な会合を持ちました。また、新たな高大連携の協定を 5 月 29 日には明徳義塾中学校・高等学校と、6 月 27 日には奈良県立高取国際高等学校と締結しました。これにより、教育に対する相互支援や生徒・学生の相互交流などを軸に連携の強化を進めていきます。

明徳義塾高等学校との高大連携調印式

高取国際高等学校との高大連携調印式

上記の協定以外の連携行事として、人間関係学科社会福祉専攻では、11 月 12 日に奈良県立榛生昇陽高等学校の生徒 14 名と教員 1 名が来学、講義、演習、実習のそれぞれについて参加生徒と対話を交えた専攻の紹介を行いました。文学部歴史文化学科考古学・民俗学研究コースでは、5 月 13 日に奈良県立西の京高等学校の生徒 40 名と教員 2 名が来学、天理参考館の見学の後ワークショッ

プを開催しました。体育学部では、10 月 9 日に岡山県立玉野光南高等学校の生徒 20 名と教員 3 名が来学、体育学部キャンパスを見学しました。

また、令和元（2019）年度は指定校を中心に近隣の高等学校約 40 校において、模擬授業や分野別ガイダンスを実施し、本学の教育内容を紹介しました。

＜広報＞

大学広報誌「はばたき」は、第 45 号および第 46 号を発行しました。平成 30（2018）年度にリニューアルを行い、広報対象を従来の在学生中心から保証人（保護者）ならびに企業の方を含む一般の方に広げ、タブロイド判として編集・発行して、幅広く多くの方に本学の取り組みを紹介し、入試広報誌としても活用しました。

大学広報誌「はばたき」

これまでの大学案内に加えて新たに学部案内を作成し、学生や卒業生の活躍の様子や大学での学びなど、学部別により詳細に魅力を伝えられるようにしました。

また、本学のプレゼンスを示すために、平成 30（2018）年度に引き続き、近鉄天理駅および Osaka Metro 御堂筋線なんば駅構内に広告看板を設置しました。

Web サイトについては、大学公式ホームページや入試情報サイトに加え、Facebook や Instagram などの SNS も活用し、教育研究活動や課外活動の情報を広く発信するよう努めました。なお、入試情報サイトに関しては、平成 30（2018）年度に引き続きリスティング広告を実施し、その有効性が見られました。また、一般社団法人日本私立大学連盟が運営し加盟大学が行っている多様な取り組みを紹介する Web サイト「私立大学 1・2・3」にも積極的に投稿し、12 件の取り組みが掲載されました。

パブリシティ活動としては、5 月に地元メディアの支局長と記者を招き、記者懇談会を開催しました。また、積極的にプレスリリースをするとともにメディアからの取材依頼にはできる限り対応し、露出を増やしました。特に 1 月には、アイドルグループ「嵐」のメンバーである二宮和也氏を迎え、体育学部キャンパスで NHK の番組撮影を行い、2 月に全国放映されました。

私立大学等研究ブランディング事業の Web サイト

さらに、平成 30（2018）年度に採択された文部科学省の「私立大学等研究ブランディング事業」の補助金を活用し、「『動スル?』プロジェクト」の Web サイトの作成や「UNITY OF MINDMATCH」開催などの取り組みを行い、ブランド力の向上に努めました。

＜社会連携・地域連携＞

令和元（2019）年度は、新たに連携協定を 4 件締結しました。1 件目は、7 月に締結した奈良県と本学との「なら歴史芸術文化村に関する連携協定」です。これは、奈良が誇る歴史文化資源に触れ、また、質の高い文化芸術イベントを体験できる歴史・芸術文化の拠点として、県が令和 3（2021）年度中の開村を目指し、本学の近隣に整備している「なら歴史芸術文化村」に関し、文化を担う人材の育成、教育・研究の振興、歴史芸術文化を活用した地域振興などを目的として締結されました。

2 件目は、11 月に天理市およびコカ・コーラボトラーズジャパン株式会社との間で締結した「スポーツ振興及び健康づくりの連携に関する協定」です。この協定は、天理市が「東京 2020 オリンピック」の聖火リレーのコースとなることを契機に、本学、天理市およびワールドワイドオリンピックパートナー企業であるコカ・コーラボトラーズジャパン株式会社が、それぞれのもつ力を出し合い、オリンピック・パラリンピックの機運醸成とレガシーの創出、スポーツおよび健康づくりを通じた地域社会の発展および市民サービスの向上を図ることを目的に締結されました。3 件目は、学校法人天理大学と奈良県天理警察署との間で 2 月に締結した「警察署使用不能時における施設使用に関する協定」です。この協定は、東日本大震災時に多くの警察署庁舎が被災し、警察署や交番などの施設が使用不能となり、警察署の指揮機能をはじめ、災害対策業務の遂行に少なからず支障が生じるなど、反省・教訓とすべき点が見られたことを踏まえ、今後、天理警察署庁舎が使用不能になった時に、代替施設を確保する必要から締結されました。今後、南海トラフ巨大地震などの大規模災害により、天理警察署庁舎が使用不能になった場合には、本学の一部が使用されることになります。4 件目は、国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所および国連 UNHCR 協会と 3 月に調印した「UNHCR 難民高等教育プログラム（Refugee Higher Education Program－RHEP）」に関する協定です。この協定は、難民に対し高等教育を受ける機会を提供するために締結されました。この協定に基づいて、本学は新たに「UNHCR 難民高等教育プログラムによる難民を対象とする特別選抜」を設け、入学検定料の他入学金および学費を全額免除し、UNHCR 駐日事務所および国連 UNHCR 協会が RHEP により推薦する難民（最大 1 名）を正規学生として、2021 年 4 月から受け入れます。

なら歴史芸術文化村に関する連携協定締結式

UNHCR との調印式

従前からの包括連携協定に基づき、地元天理市とも共同で様々な取り組みを行いました。特に、運動習慣のある天理市地域住民を 10%増やすという目標を掲げて採択された文部科学省の「私立大学等研究ブランディング事業」として、スポーツや運動への興味、関心を高め、運動習慣の向上に繋げるための取り組みを実施しました。主なものとして、「スポーツフェスタ」「公開練習（柔道部、ラグビー部、ホッケー部、野球部）」「ゆるラン教室」「天理市ランニングマップ作成」「ホスピタルフットボール大会」「体力測定会」「バドミントン・キャラバン」などを実施しました。また、天理市行政施策貢献学生認定制度において、天理市後援の「ゆるスポーツ」研修事業に準備段階から当日のイベント運営に至るまで自主的貢献的に参画することにより、協働のまちづくりに寄与したことが評価され、7 名の学生が天理市行政施策貢献学生として認定されました。さらに、課外活動だけでなく正課の授業「生涯教育特論 7」でも、学生が地元天理の事業者と「麩ろったん」というお麩から作った新しいスナック菓子を共同開発し、販売することになりました。なお、この「麩ろったん」は天理市のふるさと納税の返礼品として採用されました。「生涯教育基礎演習 1･2」の授業では、「『商店街のために大学生ができること』プロジェクト」と題し、商店街の来訪者や商店主、学生へのアンケート調査を実施し、その調査結果をもとに地元商店街の活性化のための提案をしました。このように、地域文化や産業の振興に向けた積極的な連携協力を授業の一環としても行いまし

た。相互連携協定を結んでいる明日香村へは、明日香小学校の「子どもわくわく教室」に学生を派遣し、地域の子どもたちと交流をするとともに子育て支援に貢献しました。

奈良県が取り組んでいる「県内大学生による学習等支援事業」にも 12 名の学生を派遣し、県の教育課題である小・中学生における学習機会の地域格差の解消の一助を担いました。

社会の多様なニーズに対応するため、天理市だけでなく大和郡山市とも共催して公開講座を開催しました。また、奈良市や大阪市でも開催し、本学の知的資源を広く社会に還元しました。

＜課外活動＞

ラグビー部は、「2019 ムロオ関西大学ラグビーA リーグ」で全勝優勝を果たし、「第 56 回全国大学ラグビーフットボール選手権大会」では、ベスト 4 と健闘しました。個人では、「ワールドラグビー パシフィック・チャレンジ 2020」の日本代表に 4 名が選出されました。

ホッケー部は、男子が「高円宮牌 2019 ホッケー日本リーグ」で 3 年ぶり 3 回目の優勝を果たし、女子は「2019 関西学生ホッケー春季リーグ」で優勝しました。個人では、男子 3 名が日本代表に選出され、国際大会にも出場しました。

高円宮牌優勝（ホッケー部男子）

柔道部は、「第 69 回関西学生柔道優勝大会」で優勝し、「第 38 回関西学生柔道体重別選手権大会」において、6 階級で優勝しました。また、納庄兵芽（体育学科 3 年次生）が「第 38 回全日本学生柔道体重別選手権大会」60kg 級で優勝し、中野寛太（体育学科 1 年次生）が「第 30 回ユニバーシアード競技大会」で日本代表として出場しました。

硬式野球部は、「2019 阪神大学野球連盟秋季リーグ」で優勝しました。

合気道部は、「第 50 回全日本学生合気道競技大会」「第 39 回関西学生合気道競技大会」「第 44 回関西合気道競技大会」の各部門で延べ 13 名が優勝しました。ダニエルズ・ローリー・フレドリク・リティアード（日本語専攻 4 年次生）が「2019 合気道世界選手権大会」で他大学との選手混合チームのメンバーとして出場し、優勝しました。

「第 50 回全日本学生合気道競技大会」合気道部アベック優勝

弓道部は、女子が「第 63 回関西学生弓道選手権大会」において、初優勝しました。また、遠近さやか（体育学科 4 年次生）が「第 43 回女子東西学生弓道選抜対抗試合」で西軍代表として出場しました。男子は、2018 年に引き続き「第 68 回住吉大社全国弓道大会」において団体優勝しました。

創作ダンス部は、「アーティスティック・ムーブメント in 富山 2019」で藤原真希（歴史文化学科 4 年次生）、大野舞子（体育学科 2 年次生）が特別賞を受賞しました。また、岩佐柊花（体育学科 4 年次生）、藤田菜摘（体育学科 4 年次生）、池田達哉（体育学科 1 年次生）の 3 名が「2019 座・高円寺ダンスアワードⅡ」への出演を果たしました。

ハンドボール部では、切通夢（体育学科 4 年次生）が U―22 日本代表に選出され、「アジア U―22 ハンドボール選手権大会」に出場し、優勝しました。

水泳部は、「2019 年度関西選手権水泳競技大会」で 3 名が、「第 7 回関西学生チャンピオンシップ水泳競技大会」で 2 名が優勝しました。

体操競技部は、藤井優貴（体育学科２年次生）が「セノーチャレンジカップ第３回関西学生体操大会」にて、跳馬で優勝しました。

バスケットボール部は、黄杲路（地域文化学科３年次生）と藤澤尚之（体育学科３年次生）が関西選抜に選出されました。

バレーボール部は、吉識公陽（体育学科４年次生）と難波尭弘（体育学科３年次生）が「第20回西日本大学男子バレーボール学連選抜対抗戦」で関西選抜男子チームに選出され、野毛かえで（地域文化学科２年次生）が「2020年西日本大学バレーボール女子選抜対抗戦」の選抜選手に選出されました。

ウエイトリフティング同好会は、田中聡真（地域文化学科４年次生）が「第58回西日本学生ウエイトリフティング選手権大会」67 kg級で初優勝しました。

以上、各部で顕著な活躍が見られました。

信条教育活動では、毎年恒例となっている、学生信仰団体よふぼく会主催の「夏期伝道」が国内では滋賀県、海外では韓国とオーストラリアにて行われました。また、普通授業期間中は毎朝天理教教会本部に昇殿参拝を行い、さらに年３回の「おつとめまなび」を開催しています。「ひのきしんデー」や「こどもおぢばがえり」「お節会」では、多くの学生、団体や職員が日頃に養ったひのきしん精神を体現し、多くの帰参者に本学の学生らしい姿を見せてくれました。

＜施設・設備関係＞

杣之内キャンパスでは、研究棟外壁塗装工事の第３期分として南面の外壁と屋根の塗装工事を実施しました。令和２（2020）年度以降、中庭に面する外壁塗装工事を実施し第５期で終了予定です。また、研究棟では第一会議室のプロジェクターを更新し、電動スクリーンの導入で教育研究設備の充実を図りました。

安全・安心な教育研究環境の構築のために、防犯カメラの更新を実施しました。また、LED照明への更新工事を順次実施し、省エネルギーに努めています。

体育学部キャンパスでは設備更新工事として、六号棟 3・4 階大教室の音響工事、総合体育館室内プール濾過ポンプモーター取替、総合体育館排煙装置修理、台風被害にあったテニスコートフェンス取替を実施し、教育設備の充実に努めました。

健康増進法の一部改正により、7 月 1 日より学校関係が敷地内禁煙となることに併せて、受動喫煙を防止するために必要な措置がとられた喫煙室を、杣之内キャンパスに３箇所、体育学部キャンパスに１箇所、設置しました。

課外活動施設では、厳しい暑さへの対策としてスポットクーラーの増設、日差しを遮るテントの追加購入を行いました。

情報システム関係については、教育系パソコンの維持・拡張関係で情報ライブラリーの更新、CALL教室の更新、事務職員用PCの更新、WebClassサーバーの入替、印刷管理サーバーの入替を実施しました。ネットワークの維持・拡張関係で研究棟に無線アクセスポイントを更新しました。ICTヘルプデスク関係では、教員からのヘルプ対応を行いました。なお、マルチメディア教室は、令和２（2020）年度以降に順次更新する計画です。

教育および事務パソコンや業務システムでのICT技術は、進歩と普及を加速させ、本学においても年々増設・拡大傾向にある中、システムやデータベース保全、ネットワーク安定化、セキュリティ保証、ライセンス管理、危機管理など、これら安心・安全のための担保（設備面、技術面、人員面）が益々重要な課題となっています。今後もこれら担保充実へ向けての人材育成と整備作業を計画、実施します。

＜スタッフ・ディベロップメント関係＞

令和元（2019）年度は「ガバナンス・コード」について、12 月 20 日に井原徹氏（学校法人白梅学園理事長）を招き研修会を実施しました。欠席者には DVD による視聴を求め、教職員完全参加の研修となりました。また、5 月 30 日と 6 月 7 日の 2 回に分けて、藤井茂久氏（本学顧問弁護士）を講師としてハラスメントに関する研修会を実施しました。さらに、2 月 19 日には、発達障害をテーマに自由参加の研修会として、大西和幸氏（奈良県発達障害者支援センター「でぃあー」主任）を講師として開催しました。

職員間の研修としては、2018 年日本私立大学連盟に出向した職員の報告会を開催し、グループディスカッションも取り入れ、最後に成果発表を行うなど新たな研修会を実施しました。日本私立大学連盟主催研修には 3 名が参加しました。

【天理図書館】

貴重資料・学術資料の収集・整理・保存に努め、善用を心がけました。

整理では、インターネット上での天理図書館所蔵資料の検索が可能となるように新収資料を随時公開しています。

また、5 カ年計画で取り組んだ一般図書のカード目録遡及は、86%の入力を終えました。未遡及部分では、主に和漢古書、明治期刊行書、洋書の遡及に取り組み、656 点 2,419 冊の入力を行いました。和漢古書の遡及入力は、古典籍資料を多く所蔵する天理図書館の使命であり、学会各方面の利用に供し、新たに重要資料であることが確認されるなど、学術研究の進展に寄与することができました。

閲覧では、開架書架の図書を新整理図書と入替するなど、絶えず見直し作業を行っています。貴重書（近世文書を含む）の閲覧は、延べ 176 名 1,452 冊の利用者がありました。

利用案内として、令和元（2019）年度は、4 月 15 日から 5 月 30 日の期間中、本学 1 年次生、天理教校本科実践課程、同研究課程、専修科 1 年生を対象に、また、12 月 9 日から 13 日と 1 月 20 日から 24 日の期間中、卒論利用のための天理大学 3 年次生を対象にオリエンテーションを実施しました。天理医療大学学生に対しては、利用案内の栞を配布しました。

見学対応として、国内外の研究者、学校関係者などの来客が 21 件 341 名あり、閲覧室、一般書庫、常設展示を案内しました。この他、天理医療大学からの依頼により、本学を会場として開催された 7 月 6、7 日の第 20 回日本検査血液学会学術集会において、常設展見学として 342 名の来館者がありました。

掲載業務では、231 件の申請があり、教科書、学習参考書から学術書、大学紀要類、テレビ放送に至るまで、天理図書館所蔵資料を利用していただきました。

資料保存業務では、松平定信文庫旧蔵『浴恩園真景図』下巻などの貴重資料を修復し、閲覧・複製などの利用に供せられるようになりました。

当館所蔵資料を広く一般に公開する上から、展覧会や講演会を開催しています。館内展として開館 89 周年記念展「奈良町―江戸時代の『観光都市』を巡る―」を 10 月 19 日から 11 月 10 日まで開催し、1,010 名の来場者がありました。会期中の 11 月 2 日には、幡鎌一弘氏（本学教授）による記念講演「文化資源活用のパイオニア―江戸時代の奈良―」を開催し、87 名の来場者がありました。

館外展として、天理ギャラリー第 167 回展「奈良町―江戸時代の『観光都市』を巡る―」を 5 月 12 日から 6 月 9 日まで開催し、642 名の来場者がありました。また、天理参考館において、令和改元を記念した特別展示「新元号令和の典拠―『万葉集』特別展示―」を 4 月 25 日から 5 月 6 日まで開催し 1,072 名の来場者があり、同じく「明治から令和まで元号ゆかりの書物たち～『易経』から

『万葉集』まで」を10月16日から28日まで開催し1,223名の来場者がありました。

「奈良町―江戸時代の『観光都市』を巡る―」展展示室風景

幡鎌一弘教授記念講演の模様

出版活動では、天理図書館報『ビブリア』第151号（5月刊）、同第152号（10月刊）の他、開館89周年記念展、天理ギャラリー第167回展それぞれの展覧会図録を出版しました。平成27(2015)年度から刊行が始まりました『新天理図書館善本叢書』（全5期36巻）は、第25回から第30回までを配本しました。

対外的な活動では、奈良県図書館協会大学・専門図書館部会の加盟館として県内の大学・専門図書館と連携、協力し、また、同協会地域資料研究会から委員の委嘱を受けて、地域資料について調査・研究、情報の共有化を図っています。

また、私立大学図書館協会、同西地区部会、同西地区部会京都地区協議会の各総会、研究会に出席するなど、加盟各館と連携・協力しています。

施設・設備面では、耐震診断工事、利用者用休憩室および西閲覧室の照明工事、西館北側通用口の給水管漏水修理工事および同北側庇樋詰りの高圧洗浄、吸収冷温水機自動抽気装置タイマー改造交換および同溶液配管部溶液漏れ補修工事、ボイラー燃焼安全制御機（プロテクトリレー）取替、セコムのセキュリティ設備導入工事を実施しました。この他、駐輪場北側樹木の剪定と東館およびボイラー棟東側松の伐採、玄関正面植え込みの藤棚改修を実施しました。館内外の環境美化に日々取り組みました。

【おやさと研究所】

令和元（2019）年度も、おやさと研究所に託された天理教内外からの期待に応えるべく着実な歩みを進めました。

「天理教事典研究会」は、月例の研究会として、天理教布教部社会福祉課点字文庫の質問・協力を得ながら、『天理教事典 第三版』を最初から読み直す作業を進めています。これは項目においても記述においても、より完璧な「事典」編集を目指すものです。

「公開教学講座」は、「信仰に生きる『逸話篇』に学ぶ（5）」をテーマとして開催しました。これは『稿本天理教教祖伝逸話篇』を手掛かりとして、天理教の信仰の世界の一端を明らかにし、さらに深めるためのものです。令和元（2019）年度も道友社6階ホールを会場に4月から11月までに計6回開催し、多くの来聴者を得て好評をいただきました。内容は、「51話･家の宝」（高見宇造前所長）、「70話･麦かち」（金子昭研究員）、「72話･救かる身やもの」（澤井義次研究員）、「58話･今日は、河内から」（尾上貴行研究員）、「71 話･あの雨の中を」（島田勝巳研究員）、「73 話･大護摩」（堀内みどり主任）です。なお、その要旨は『グローカル天理』などで発信しています。

特別講座「教学と現代」は、2 月 25 日に佐藤孝則研究員の最終講義を兼ねて、「元の理」を動物学の見地から考察する「“佐藤「元の理」学”の世界」と題して開催しました。当日は、多くの来場者を迎え、『天理時報』および『奈良新聞』の取材がありました。

特別講座「教学と現代」

「研究報告会」は主に研究員が中心となり、現在取り組んでいる研究成果の一端を報告するものですが、以下の通り開催しました。「『緑の回廊』づくり―百年の大計の試み―」（佐藤孝則研究員）、「WCRP 日本委員会平和研究所の活動について」（金子昭研究員）、「医学研究にみられる 115 歳定命の問題」（中西康裕 奈良県立医科大学大学院医学研究科博士課程）、「The 16th United Nations Day of Veask (UNDV)2019 参加報告」（堀内みどり主任）、「20 世紀における北大西洋地域のスピリチュアル・セラピーとしてのレイキ」（ジャスティン・スタイン 佛教大学 日本学術振興会外国人特別研究員）、「解決志向アプローチ」（金山元春 本学教授 総合教育研究センター）、「教学における『からとにほん』理解の展開と課題」（遠藤正彦 天理教校職員）、「ヌン族の華人と中越国境地域の神々」（芹澤知広 本学国際学部教授）、「天理教と社会福祉―宗教と社会貢献を考える―」（アダム・ライオンズ 本学大学院研究員）、「『神の存在証明』の手法としての『実証主義』―中山正善における『無媒介の結合』をめぐって―」（島田勝巳研究員）、「『イスラム神秘主義』と『スーフィズム』―イスラム神秘思想に対するまなざしの変遷―」（澤井真研究員）。報告会の要旨は、『グローカル天理』に掲載しました。

「宗教研究会」は、「20 世紀前半の中国ムスリムに対する欧米キリスト教宣教師の活動」の題目で、海野典子氏（日本学術振興会特別研究員（中央大学） ウズベキスタン共和国科学アカデミー歴史学研究所客員研究員）より、中国におけるイスラム教徒の状況や歴史などについてお話をうかがい、活発な質疑応答がありました。

出版活動としては、月刊『グローカル天理』2019 年 4 月号～2020 年 3 月号、『おやさと研究所年報』第 26 号、『Tenri Journal of Religion』第 48 号、「伝道参考シリーズ 37」として『地域福祉を拓く―新たな寄付文化の創造―』（渡辺一城著）、「グローカル新書 16」として『「おふでさき」の動詞からの探索』（深谷耕治著）を刊行しました。

高野友治氏（元本大学名誉教授）の天理教史に関する書籍を中心に、蔵書 1,413 冊、海外部移転に伴って海伝ライブラリーなどから天理教海外伝道に参考になる書籍 807 冊を譲り受け、整理、配架しました。

【天理参考館】

博学連携の充実を図るため、本法人各学校や天理市内の小・中学校への当施設利用促進の働きかけを行いました。その結果、7 月に天理市教育委員会主催の初任者研修を当館にて開催しました。また、展示資料の見学案内だけでなく、学校教育充実の一助となるような取り組みも行いました。

Osaka Metro 開業 1 年『大阪市営交通 114 年の軌跡』

令和元（2019）年度は、常設展示（「震災復興展示―民俗と歴史 ―」（2015 年 7 月～）を含む）の他、企画展「祈りの考古学―土偶・銅鐸・古墳時代のまつり―」

（7 月～9 月）、Osaka Metro 開業 1 年「大阪市営交通 114 年の軌跡」（10 月～12 月）、スポット展「五月人形」（4 月～5 月）および展示している資料を「絵手紙」にした「2019 天理参考館「絵手紙」展」を開催しました。天理ギャラリー展としては、「古代中国 墳墓の護り手」（10 月～11 月）を開催しました。また、「こけしⅡ―遠刈田と土湯・中ノ沢―」（2020 年 2 月～4 月）を開催していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大抑制による臨時休館のため、途中で開催中止となりました。

企画展関連イベントとして開催した講演会（3 回）、ミニトーク（1 回）、鉄道模型走行実演と記念硬券キップの配布（9 回）、ギャラリートーク（展示解説／7 回）は好評でした。

この他、トーク・サンコーカン（公開講演会／9 回）、ワークショップ「バリガムラン体験講座」「クラシックギター講座」「こどもおぢばがえりイベント」「綿に親しむ―木綿の糸と布をつくりましょう―（全 4 回）」を開催しました。また、ミュージアムコンサート「参考館メロディユー」（天理教音楽研究会共催／12 回）を継続して開催しました。

平成 21（2009）年度から始めた寄贈資料の整理・登録業務を進めました。通常業務としては生活文化・考古美術資料の収蔵品および研究用図書の充実を図り、資料の調査研究、整理、修復・保存処理を行いました。さらに、資料データベースソフトの移行に伴う共通項目の策定、移行データ準備など作業を行い、収蔵資料データベース用サーバーの設置を行いました。

出版物として『天理参考館報』、『企画展図録』、『天理参考館ニュースレター』を刊行しました。

平成 30（2018）年度に引き続き、「平成 31 年度文化庁地域の博物館を中核としたクラスター形成事業『ヤマト・天理の歴史文化をめぐる』プロジェクト」が採択され、「駅前出前博物館―ワークショップ―」（全 5 回）、連続講座「ヤマトの歴史絵巻」（全 6 回）、歴史ウォーク～バスで訪ねる文化遺産～「大和の中のヤマト―大和の古代豪族―」（全 2 回）などの各種イベントおよび館内での授業支援および周辺小学校における出前授業を実施しました。また、この事業では、ポルトガル語のリーフレットを作成し、当館ならびに市内各所へ配置しました。

広報としては、ホームページによる情報発信のさらなる内容充実に努めるとともに、新たに Twitter を始めました。また、情報誌、マスコミへの情報提供、各種ポスター、ちらしを発行するなど、館活動の情報発信を継続して、広報活動の充実を図りました。

その他、資料熟覧、資料写真掲載・映像取材などの協力を行い、また、来館者に喜んで頂けるような親切な接客、博物館情報の提供、館内の美化に取り組みました。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3 月に予定していた全てのイベントを中止しました。

【天理高等学校第一部（全日制）】

令和元（2019）年度は新入生 403 名を迎えて、全校生徒 1,234 名でのスタートとなりました。

教職員研修については、信条教育部が主体となって、6 月 21 日に上田嘉世氏（天理教本部員）をお迎えして、「おつとめとおさづけ」について講話を拝聴しました。12 月 4 日には、杉岡信宏氏（天理教錦行分教会長）を招き、天理教の教えに基づく「心身の悩みを抱える生徒への適切な指導」と題された話を聴かせていただき、信条教育の観点に立った生徒への適切な指導についてご教示いただきました。

さらに、個々の教員が共通の認識をもって生徒指導や進路指導に取り組むための研修をはじめ、人権学習の根幹を確認する研修、熱中症の予防と迅速な対処に関する研修を、生徒指導部・進路指導部・人権教育部・学芸体育部などが企画し、計 8 回にわたって実施しました。また、教科指導の充実を図るために、6 月と 11 月に授業研究会を開き、各教科代表の教員が研究授業を実施しまし

た。その他、外部研修へも多くの教職員が参加しました。

「こどもおぢばがえり」ひのきしんに関しては、7 月 16 日から 24 日までの準備期間には、各会場の整備や受け入れ準備に勤しみ、7 月 26 日から 8 月 4 日までの本期間には、8 つの行事会場で各役割を担いました。全期間で延べ 797 名の生徒が参加しました。また、夏の「学生生徒修養会 高校の部」には自宅通学生 26 名（昨年 18 名）が参加しました。「天理教少年会育成講習会 天理高校生の部」には、98 名（昨年 109 名）の生徒が参加し、子どもたちと接することの喜び、縦の伝道の大切さを学びました。

進学・学習指導については、志望大学毎のオープン模試や実戦模試へのチャレンジを促し、模試データの活用にも工夫を加えました。また、進路講演会やガイダンスを実施しました。1・2 年生を中心に e ポートフォリオに取り組みました。センター試験には 1 類 16 名、2 類 34 名、合計 50 名が受験しました。

令和元（2019）年度も通常の課外講習に加え、夏季・冬季講習、合宿勉強会、特設課外講習、土日を利用しての補習やセンター試験対策を実施しました。8 月末には 2 類の生徒を中心にして、滋賀県高島市の「アクティプラザ琵琶」にて、4 泊 5 日の合宿勉強会を実施しました。総勢 120 名（前年 105 名）が参加し、快適な学習環境の中で集中して学習に取り組むことができました。

12 月には 16 回目となる海外研修をタイ王国のチェンマイとバンコクにて実施し、1 年生を対象にして過去最多の 42 名（前年 39 名）が参加しました。生徒たちは様々な異文化体験を通して自身の視野を広げることができました。

全教職員に対して、記名式の「学校評価」を実施しました。これに生徒による評価を加え、学校としての在り方や生徒の実態を分析するとともに、「学校評価」の目的に相応しい取り組みができるように、各分掌で成果と課題を整理し、令和 2（2020）年度に向けた方策を示しました。また、10 月の保護者懇談会の際には、保護者に対して「学校評価アンケート」を実施しました。

進学実績としては、2 類からは横浜国立大学、千葉大学、岡山大学、山口大学、熊本大学、奈良女子大学、奈良教育大学、奈良県立大学、大阪教育大学、その他、計 17 校の国公立大学に 20 名が合格しました。これは、2 類現役生 59 名の 3 人に 1 人が国公立大に合格したことになります。さらに、天理大学、天理医療大学、関西大学、関西学院大学、同志社大学、立命館大学、近畿大学、京都産業大学、龍谷大学、慶応義塾大学、中央大学、法政大学など、多くの私立大学に延べ 67 名が合格しました。

1 類からは、三重大学、愛知県立芸術大学、島根大学、高知大学、高知工科大学、奈良教育大学、福岡県立大学の国公立大学に 7 名が合格しました。さらに、天理大学、天理医療大学、関西大学、立命館大学、近畿大学、京都産業大学、龍谷大学、法政大学、中央大学など、多くの私立大学に延べ 169 名が合格しました。

3 類からは、天理大学、同志社大学、関西学院大学、立命館大学、近畿大学、龍谷大学、法政大学、中央大学、明治大学などの私立大学に計 53 名が合格しました。

全類で国公立大学 27 名をはじめ、天理大学 111 名、天理医療大学 18 名、その他の私立大学 160 名、短期大学 13 名、天理教校専修科 9 名、専門学校 80 名を加え、延べ 418 名が合格しました。

耐震・改築工事として、令和元（2019）年度は、本校舎の耐震補強工事を実施しました。その間、第 4 別館と北グラウンドの仮設校舎を使用して授業が行われ、工事は 2020 年 2 月に完了しました。天理中学校・天理高等学校の校舎および付属施設耐震改修工事については、養徳会のご協力をいただき、2018 年 7 月より開始しました募金活動が 2020 年 3 月をもって修了しました。期間中に 5,570 万円余りのお心寄せを全国から頂戴しました。

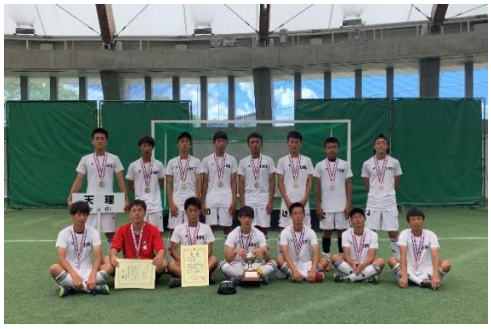
クラブ活動の報告は以下の通りです。

硬式野球部は、「秋季近畿地区高等学校野球大会」において、決勝戦で大阪桐蔭高校を 12－4 で

破り、5年ぶりの優勝を果たしました。その結果、「第50回記念明治神宮野球大会」への出場権を獲得しました。明治神宮野球大会では、1回戦で仙台育英高校を8－6で破り、続く準決勝で中京大中京高校に9－10と惜敗しましたが、全国大会ベスト4という輝かしい成績を収めました。

水泳部の難波実夢（2年生）は、今や日本水泳界のホープとして成長しています。彼女の今シーズンの主な戦績は以下の通りです。4月に東京辰巳国際水泳場で行われた「第95回日本選手権水泳競技大会」女子400m自由形において優勝し、同じく800m自由形においても優勝しました。8月にハンガリー・ブダペストで行われた「第7回世界ジュニア選手権大会」女子800m自由形においては準優勝となり、8分27秒24の日本高校新記録を樹立しました。この記録は東京オリンピックの派遣標準記録を上回っており、オリンピック選考会での代表決定に向けて、大きな期待を抱かせる結果となりました。さらに、9月に茨城県で行われた「第74回国民体育大会」少年女子A400m自由形においても優勝しました。また、種村舞雪（2年生）は、8月に熊本県で行われた「第87回日本高等学校選手権水泳競技大会」において、女子400m自由形第3位、800m自由形第4位と健闘しました。

ホッケー部男子は、7月に宮崎県で行われた「第82回全国高等学校ホッケー選手権大会」決勝戦において、丹生高校（福井）に敗れ、準優勝となりました。「第74回国民体育大会」決勝戦においては、栃木県代表の今市高校に2－4で敗れ、準優勝となりました。そして、12月に川崎重工ホッケースタジアムで行われた「第51回全国高等学校選抜大会」決勝戦において、今市高校（栃木）を3－2で破り、見事優勝しました。


第82回全国高等学校ホッケー選手権大会 準優勝

弦楽部は、11月に福島県郡山市けんしん郡山文化センターで開催された「第8回日本学校合奏コンクール2019 全国大会ソロ＆アンサンブルコンテスト」において金賞を受賞し、全国1位となる文部科学大臣賞を受賞しました。これは2年連続の快挙となりました。

バトントワリング部は、12月に幕張メッセイベントホールで行われた「第47回バトントワーリング全国大会」において、金賞を受賞しました。

個人の活躍としては、西田秀聖（2年生）が7月にフランス・ブリアンソンで行われた「IFSCクライミング・ワールドカップ」において、リード部門で見事優勝しました。また、12月に埼玉県の加須市民体育館で行われた「第10回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会」（リード種目のみ）において、見事大会2連覇を達成しました。

【天理高等学校第二部（定時制）】

令和元（2019）年度は新入生98名を迎えて、全校生徒387名でのスタートとなりました。

4年生のおさづけの理の拝戴については、4月3日に天理教直属教会からお声をかけていただいた生徒1名を皮切りに、最後の6名が拝戴させていただいた12月6日をもって100名全員が拝戴し、「ようぼく」となりました。

おさづけの理を拝戴

4月5日の入学式、また6日の始業式後、それぞれ学級担任による生徒の個人面談を開始し、4月末から

始まる大型連休前までに生徒の情報把握に努めました。16 日には、農事部の生徒職員が天理教教会本部の「はえでのつとめ」に揃って参拝をし、農作物の豊作を祈りました。

天理教教会本部教祖誕生祭には全員が揃って参拝し、教祖に御祝いを申し上げ、翌日に開催された天理教婦人会総会には 1 年生女子が「入会の誓い」をし、新たな一歩を歩み出しました。26 日の天理教教会本部月次祭には、4 年生全員で参拝しました。

稀にみる大型連休となった 5 月連休明けに、生徒の情報交換を主たる目的として学校教員と寮職員全員が学校学寮懇談会を開催しました。中間考査後の 5 月 20 日には県から委託を受けているスポーツテストを実施、5 月 25、26 日には、年 2 回実施している保護者懇談会を開催しました。懇談会終了後の時間帯で、25 日には信条教育として教話〔年 2 回実施（例年は 3 回）: 5 月 25 日には「介護福祉について」乾真輔氏（卒業生 介護福祉士）、2 月 12 日には「ワクワク生きるために大切な 3 つのこと」安藤吉人氏（天理教青年会前委員長）〕を拝聴しました。翌 26 日は地震を想定した避難訓練を実施しました。30 日には校外学習を実施、1 年生は奈良公園方面、2 年生は飛鳥方面へ行き、3 年生は天理参考館を見学しました。

6 月から 10 月にかけて、学級担任が各つとめ先への訪問を実施し、6 月の天理教信者詰所主任懇談会や 10 月のつとめ先懇談会と併せて生徒の情報交換、相互理解となる機会をもちました。また、つとめ先懇談会では全体会に引き続いて、研修会（各つとめ先の担当者と本校教職員合同）を実施しました。「二部生へのアンケート結果から」とのテーマで、講師の篁宗一氏（静岡県立大学教授）を講師に招き、生徒個々が普段から抱える悩みや傾向についてご助言をいただきました。この研修会については、今後も継続して実施したいと思っています。6 月 14 日には、令和元（2019）年度 1 回目の「いじめアンケート」を実施し、10 月の 2 回目と合わせて、暴力・いじめ等の根絶と未然防止・早期発見に努めました。また、15 日には基礎学力向上と学習意欲向上を図るため、校内学力テスト（3・4 年生対象）を、9 月下旬と合わせて年 2 回実施しました。

6 月 21 日には、農事部で「田植え」が行われました。植えられた苗はしっかりと育ち、10 月には「稲刈り」を行いました。22 日には、第 1 回オープンスクールを開催し、来校者数は 173 名（11 月の第 2 回オープンスクールの来校者は 339 名）でした。例年同様に学校紹介・個別相談会・授業・給食・部活動の見学など、限りある時間の中でしたが、学校生活を理解していただきやすい形態で実施しました。26 日には校内生活体験発表大会が開かれ、12 名の弁士が全校生徒の前で発表をしました。その発表結果を踏まえて出場した 10 月の「第 63 回奈良県高等学校定時制通信制課程生徒生活体験発表大会」では、田辺七海（4 年生）が優秀賞を、浅井なのは（4 年生）が奈良新聞社賞を受賞しました。

7 月、学期末考査後の 11 日には天理警察署から有山生活安全課長に来校いただき、「薬物、SNS」についてのお話をいただきました。この頃から、本校舎の耐震工事が本格的に開始され、別館とグラウンド内の仮設校舎での生活が始まりました。

夏の「こどもおぢばがえり」では、教職員・生徒がひのきしんを実施しました。吹奏楽部は「こどもミュージカル劇場」を担当し、加えて、最後となった「おやさとパレード」にバトントワリング部とともに出演しました。

東京を中心に開催された「令和元（2019）年度全国高等学校定時制通信制体育大会」に、8 競技 110 名の選手が出場しました。団体戦では軟式野球部が 13 年連続 16 回目の優勝、バレーボール部女子が 3 年連続 13 回目の優勝、バスケットボール男子が 4 年ぶり 4 回目の優勝を飾りました。個人戦では、柔道部女子 63kg 級で佐野明花里（4 年生）が 3 年連続優勝をしました。お互いの部活動が切磋琢磨し、例年以上の成績を残してくれました。これらの種目の団体・個人に対して、奈良県高等学校体育連盟・奈良県教育委員会・奈良県高等学校定時制通信制教育振興会から表彰を受けました。また、文化系部活動では、吹奏楽部が日頃の活動の評価を得て、「第 39 回近畿高等学校総

合文化祭京都大会」へ奈良県からの推薦校として初めての出演を果たしました。バトントワリング部は「第41回バトントワーリング関西大会」において金賞を、書道部は「第66回日本学書展」で前田穂乃香（4年生）が「文部科学大臣賞」を受賞しました。

その他、授業などの活動から、久保庄平（4 年生）が県の「熱と光のショートレター」で最優秀賞を、田辺七海（4年生）が「第19回高校生フォーラム『17歳のメッセージ』」で金賞を、さらに「第23回ふくい風花随筆文学賞」において奨励賞を受賞しました。

9月には、体育祭を実施しました。耐震工事の関係で2019年は例年の北グラウンドではなく、西グラウンドにおいて実施しました。移動距離や動線など不便な面はありましたが、職員と生徒が協力し合い、例年と遜色なく終えることができました。11月に実施した文化祭も同様に、運用方法を練り直しての実施となりましたが、その分、記憶に残る行事となりました。

1月、「天理教お節会」では、例年通り教職員・生徒が帰参された方の接待や生餅の係としてひのきしんを行いました。

2 月、3 年生が横手山スキー場にてスキー実習を行いました。生徒は、見渡す限りの銀世界の中で記憶に残る素晴らしい経験をしました。23日には、4年生100名が卒業式を迎え、学び舎を巣立っていきました。28日、29日には、新型コロナウイルスの影響が心配されましたが、令和2（2020）年度入学試験を無事に実施することができました。

3月3日から6日にかけて学年末考査を実施し、年度末を締めくくりました。

教職員の研修については、令和4（2022）年度から年次進行型で実施される新学習指導要領に向けた教育課程研究集会が、一年を通じて県立教育研究所にて開催され、また各教科の学習指導研究会も各々に実施され、それぞれに教員が参加しました。11月には、本校を会場として定時制通信制課程学習指導研究会（主催・県教育委員会）が開催され、本校教員が研究発表、公開授業（数学、理科）を実施し、新学習指導要領に向けてのより良い研修の場となりました。

近年、生徒の学力格差が顕著となりつつある中、学期末に実施している基礎講習、数学基本講習への取り組みや基礎学力向上に向けてのより一層の授業の工夫、「何ができるようになるか」を意識した授業研究を進めました。

「学校運営評価」や「めざす教職員像」については、目標や設定の趣旨を理解し、日々の向上に努め、生徒の見本となるよう、各々が努力を積み重ねています。

【天理中学校】

令和元（2019）年度は、全学年が5クラスから4クラス体制となったため、多くの行事などに変化が見られ、耐震補強工事（2019年2月完了）後の校舎において新たな天理中学校の歴史を創る年度となりました。学校生活においては、「一生懸命にやろうとする心」「生活の基礎基本・基本的生活習慣を身につけよう」という2つを1年間の学校生活の柱として、様々な場面において繰り返し伝え、日々の学校生活を過ごしました。

学校全体としては、「毎朝の学校参拝」や「ひのきしん活動」を職員生徒がともに勇んで意欲的に取り組むことができました。また、「おさづけの取り次ぎ」や「お願いづとめ」も、意識の高まりとともに、積極的な実践の姿が学校生活の多くの場面で見られました。今後も、教職員自らが「ようぼく」であるという自覚をしっかり持ち、努力を重ねたいと考えています。

授業内容の充実や教員の資質向上に向けては、平成30（2018）年度は校舎の一時移転により職員研修をほとんどできなかったため、令和元（2019）年度は人権学習や保健体育等の校内研修を積極的に実施しました。また、教科研修においても、県や市の「研修講座」や「授業研修」へ参加して、

充実した研修機会をもつように努めました。

学校生活面では、平成30（2018）年度から引き続き、「いじめのない学校生活をめざす」ということを重点目標に据えて取り組みました。例年のように「いじめに関するアンケート」を実施して見えてきた問題点について、各クラスや学年、生徒指導部会で細かな点も見逃さずに対応するよう心がけるとともに、問題が起こった際は学校全体が組織として動くよう取り組むことができました。今後も、教員がいじめに対して「絶対に許さない」という意識をしっかりもって指導にあたりたいと思います。「礼儀正しい規律のある学校」として「挨拶」はとても重要なものであり、これまでの取り組みの成果もあり、しっかりとできていると感じています。「挨拶ができる天中生」が定着してきており、特に修学旅行などで校外へ出た時や来校者への挨拶は、良いにをいがけとなっています。令和2（2020）年度以降も継続したいと思います。その他、規律面で不十分な部分については、学校全体として見逃さず、教職員一人ひとりが厳しさをもって取り組むよう努力していきます。

学習面では、全学年が「朝の会」の時間を利用して、読書に取り組むことで、1 限目から真剣に落ち着いて授業に臨むことができました。学習に対する生徒一人ひとりの意識を高め学力を向上させていくことを目標に、今後も継続して基礎基本に重点をおいた指導の徹底に取り組みたいと思います。また、3 年生の高校入試については、多くの生徒が希望する進路を開拓実現できているものの、今後も天理高等学校との連携を推し進め、個々の徳分を生かせる進路開拓ができるよう進路指導を充実させたいと考えています。

不登校傾向の生徒やオアシスルームに入る生徒、また、近年増加傾向にある心に苦しみを抱える生徒たちへのケアについては、令和元（2019）年度も教育相談委員を中心に、各担任や学年、養護教諭やカウンセラー、天理大学院生であるオアシスフレンドとの連携を密にしながら状況把握に努め、カウンセリングにつなげるなどのサポートを行いました。また、担任や副担任の家庭訪問も必要に応じて繰り返し行いました。特別支援教育について、対象生徒への対応について考えることが多くあり、令和元（2019）年度も研修を実施ました。特別支援員としての役割をもつ教員が積極的に授業に入り込み、新たな課題や問題解決のために努力を重ね、今後も継続して取り組む必要があることを確認できました。

部活動では、ラグビー部、柔道部、飛込部、水泳部、弦楽部、箏曲部が全国大会への出場を果たしました。その中で、箏曲部が「第37回全国小・中学生箏曲コンクール」において金賞を受賞、弦楽部が「こども音楽コンクール」で文部科学大臣賞を受賞し、両部が2年連続で日本一となりました。

新型コロナウイルス感染症拡大抑制のため、3月3日から春休みまで臨時休校としました。

4 つの団に分かれて行われた運動会

令和元年度 部活動の活躍

【天理小学校】

新任教員3名、新入児童102名を迎えて、令和元（2019）年度が始まりました。

平成30（2018）年度同様、教祖百三十年祭における天理教真柱のお言葉を指針に学校運営を推進しました。「道の後継者の育成」の一端を本校の教育が担っている事を教職員一人ひとりが心に刻み、教祖の教えに基づいて子どもたちの育成に努めました。「教義」「信条」の授業はもとより、学校行事、学級活動など学校生活のあらゆる機会を通して、親神様の思召、教祖の親心を子どもたちに伝え、この御教えを身に行えるように取り組みました。

職員研修については、大テーマを「信条教育の実践」、中テーマを「お道の教えを通して、児童の心を育てる」「児童の学力を育てる」「児童に生きる力を身につけさせる」とし、さらに6つの小テーマを設けて、多方面での研修を実施しました。中でも令和元（2019）年度は、信条講話に福江弘一氏（天理教周海分教会長）を招き、「かしものかりものの理」をテーマにお話を聞かせていただきました。講演を通して、身の回りのもの全てが親神様のお与えであることに改めて気づかされると同時に、感謝の心をもって生活することの大切さを教えていただきました。

学習指導については、基礎基本の定着のため、各教科、各学年が重点目標をそれぞれに掲げ、日々の授業を展開しました。また、2020年4月より施行される新学習指導要領の対応として、研修で取り上げ研究授業を展開しました。

生活指導については、平成30（2018）年度と同様に、電車通学児童の登校指導を重点的に行いました。また、保護者の立哨報告書をWeb対応とすることで、提出率アップと保護者の安全意識の向上がみられました。

特別支援を要する児童が通級する「パレット教室」は、平成30（2019）年度同様の4教室とし支援体制の充実を図りました。また、勉強会としての蔭山静加氏（作業療法士）にご講演いただきました。

施設・設備については、パソコン教室のリプレイスが行われ、Wi-Fi環境が整いタブレットPCが設置されました。その他、耐震対策としてプールサイドのブロック塀改修工事、防火対策として防火扉の改修を実施しました。

令和元（2019）年度の締めくくりとなる3月は、政府の要請で臨時休校となりました。そのため、卒業式は卒業生と保護者のみの出席とし、規模を縮小して実施しました。例年は在校生がつとめる「よろづよ八首」の鳴り物を教職員がつとめ、「仰げば尊し」を卒業生・保護者・教職員が声高らかに歌い、温かく卒業生を送り出しました。

リプレイスされたパソコン教室

タブレットPC

【天理幼稚園】

「元の理」ペープサート

将来の「ようぼく」を育てるという本園創立の精神を自覚し、日常の生活の中で、幼児に親神様のお働きやお恵みを実感できる場や機会を逃さず捉えて伝えていけるよう、教職員が一手一つに勇んで務めました。

令和元（2019）年度の活動として、教育内容については「元の理」のお話を幼児向けに脚本化し、ペープサートを作成して大祭行事で披露しました。

体を動かす遊びが幼児の心身の発達を促すということを踏まえ、発達に応じて運動遊びの楽しさを十分に味わえるような計画と環境作りの工夫を行いました。また、毎日の様々な会話の中で自分の思いを伝えることの喜びが感じられるよう発達に応じた援助をしてきたことから、自分の言葉で順序立てて思いを伝えたり、友達の話に真剣に耳を傾け質問したりする姿が見られるようになり、話す力、聞く力がついてきました。

教育研修については、園内研修で教職員が天理幼稚園創立における中山たまえ初代園長の思いや天理教婦人会の方々のご尽力のお話を伺い、2025 年に創立 100 周年を迎えるにあたり教職員一人ひとりが心を新たにしました。また、幼児期の発達や学びの特質を踏まえた記録の在り方について協議し、毎日の保育の中で幼児の遊びの姿から具体的な場面を記録に残し、教職員間で共有する時間を設けました。

支援を要する幼児に対しては、保護者の思いを聴き、療育施設や専門機関へ積極的に同行し、連携を図ることで個々の課題を明確にもち、支援にあたるよう心がけました。また、感覚統合療養に同行して学んだことを日々の保育の中に取り入れたり、個別の感覚統合遊びを実施したりして、幼児の発達が促進されるよう努めました。

保護者との連携については、保護者の悩みや心配事を察知し、積極的に教職員から声をかけたり相談日を設けることに努めました。また、幼児の体調変化や怪我、友達とのトラブルなど、園内での様子を電話で報告する際は、詳細を丁寧にお伝えできるよう心がけました。

環境面については、老朽化した巧技台や平均台などの体育用具を修繕し、幼児が安心して遊ぶことができるようになりました。

新型コロナウイルス感染拡大予防対策として 3 月 5 日より臨時休園となりましたが、その間も保護者の就労などにより保育を必要とする方に対する臨時保育、預かり保育を実施しました。

3. 財務の概要

（1）学校法人会計について

学校法人が作成しなければならない計算書類は、文部科学大臣が定める基準「学校法人会計基準により、資金収支計算書及びこれに附属する内訳表（資金収支内訳表、人件費内訳表、活動区分資金収支計算書）並びに事業活動収支計算書およびこれに附属する内訳表（事業活動収支内訳表）並びに貸借対照表及びこれに附属する明細表（固定資産明細表、借入金明細表、基本金明細表）となっています。

学校法人が作成する主要な計算書類と主な役割は次のとおりです。参考として企業会計における類似の財務諸表と役割を併記します。

学校法人会計	企業会計
○資金収支計算書 会計年度のすべての資金の収入及び支出の内容と支払資金のてん末を明らかにする。	○キャッシュ・フロー計算書 会計期間の資金の収入と支出（源泉と用途）を表し、企業の資金状況を明らかにする。
○事業活動収支計算書 会計年度の収支バランスを表し、永続性を維持するための経営状況を明らかにする。	○損益計算書 会計期間の損益の状態を表し、損益とその採算性（経営成績）を明らかにする。
○貸借対照表 一定時点における資産、負債、基本金等の内容と金額を表し、財政状況を明らかにする。	○貸借対照表 一定時点における資産、負債、資本金等の内容と金額を表し、財政状況を明らかにする。

（2）令和元年度決算の概要

令和元年度決算は、令和 2 年 5 月 29 日の理事会で承認されました。

令和元年度決算について、資金収支計算書、事業活動収支計算書、活動区分資金収支計算書及び貸借対照表によりその概要を報告します。

◈ 資金収支計算書

資金収支計算書は、当該年度における教育・研究その他の活動に対応するすべての収支内容、並びに支払資金の収支のてん末を明らかにしたものです。すべての収支内容を明らかにするとは、実際の収入・支出に限らずその会計期間に入金又は出金すべき額、すなわち未収入金や未払金も収入・支出に含め、授業料免除等のお金の動きが実際にない活動も含めることになります。また、支払資金のてん末とは、支払資金の前年度末残高、入金、出金及び年度末残高を明らかにすることです。従って収入には前年度繰越支払資金を含めて計算し、支出には翌年度繰越支払資金を含めて計算することになり、収入の部合計と支出の部合計は一致します。

資金収支計算書は企業会計におけるキャッシュ・フロー計算書に近いものですが、個々の収入金額、支出金額は前受金、未収入金、未払金、前払金等で処理した費用も含まれていますので、必ずしもキャッシュ・フローとはなっていません。しかし、それら前受金等を調整する「調整勘定」を設けることにより、総額としてはキャッシュ・フローを示しています。

（単位：千円）

●収入の部			
科　　目	予　算	決　算	差　異
学生生徒等納付金収入	3,759,836	3,742,166	17,670
手数料収入	64,952	65,983	△ 1,031
寄付金収入	2,266,100	2,372,201	△ 106,101
補助金収入	1,506,015	1,474,305	31,710
資産売却収入	0	100	△ 100
付随事業・収益事業収入	19,930	20,705	△ 775
受取利息・配当金収入	21,701	25,413	△ 3,712
雑収入	250,366	256,319	△ 5,953
借入金等収入	500,000	500,000	0
前受金収入	480,050	478,050	2,000
その他の収入	1,022,520	1,143,232	△ 120,712
資金収入調整勘定	△ 935,570	△ 931,776	△ 3,794
前年度繰越支払資金	5,485,790	5,485,790	
収入の部合計	14,441,690	14,632,488	△ 190,798

●支出の部			
科　　目	予　算	決　算	差　異
人件費支出	5,328,664	5,329,856	△ 1,192
教育研究経費支出	1,392,763	1,387,822	4,941
管理経費支出	289,513	302,924	△ 13,411
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	424,000	410,776	13,224
設備関係支出	227,026	208,270	18,990
資産運用支出	139,510	250,915	△ 111,405
その他の支出	1,017,900	1,024,838	△ 6,938
資金支出調整勘定	△ 753,200	△ 807,666	54,466
翌年度繰越支払資金	6,375,280	6,524,753	△ 149,473
支出の部合計	14,441,690	14,632,488	△ 190,798

収入の部では、学生生徒等納付金収入は予算額を 1767 万円下回りの 37 億 4217 万円となりました。手数料収入は予算に対して 103 万円増額となっています。寄付金収入は宗教法人天理教より 22 億 1 千万円、その他の寄付金は 100%出資の事業会社「キャンパスサポート天理」の受配者指定寄付金、天理高等学校柔道寮（火水風寮）耐震補強等の使途指定寄付金および一般寄付金が合わせて 1 億 6220 万円ありました。

1 億 6220 万円の内訳は以下の通りです。

内　容	金　額
法人教育振興寄付金	1550 万円
校舎等耐震化募金	913 万円
高校柔道寮（火水風寮）耐震補強寄付金	1 億円
（株）キャンパスサポート受配者指定寄付金	700 万円
その他の受配者指定寄付金	620 万円
高校プール改修工事寄付金	1373 万円
その他の寄付金	1064 万円

補助金収入は、国庫補助金収入が見込みを下回り 14 億 7431 万円となりました。国庫補助金収入のうち、私立大学等経常費補助金は予算に対して 6318 万円増額し 5 億 3618 万円となっています。耐震工事関係の私立学校施設設備費補助金は、予算額を 839 万円下回り 1 億 9631 万円となりました。地方公共団体補助金収入は見込みを上回り、予算額より 348 万円増額の 7 億 2999 万円となっています。地方公共団体補助金収入のうち、私立学校耐震化緊急促進事業補助金は、予算どおりの 5000 万円となっています。補助金収入合計は 14 億 7431 万円となりました。付随事業・収益事業収入はほぼ予算どおりの 2071 万円となりました。受取利息・配当金収入は見込みを上回り 2541 万円となっています。雑収入は、施設設備利用料収入が見込みを上回り 2983 万円、私立大学退職金財団等交付金収入はほぼ予算どおりの 1 億 7176 万円、また、その他の雑収入が 308 万円見込みを上回ったことなどにより、予算に対して 595 万円の増加となりました。前年度繰越支払資金等を加えた収入の部合計では 146 億 3249 万円となりました。

支出の部では、人件費支出は予算を 119 万円上回り 53 億 2986 万円となりました。前年度より教員人件費は 1044 万円、職員人件費は 2881 万円、退職金は 1 億 9944 万円減額したため、人件費合計では、前年度より 2 億 3881 万円減額しています。教育研究経費支出、管理経費支出、施設関係支出、設備関係支出に計上された主な工事、備品等の整備は以下のとおりです。

施　　設	内　　容
法人事務局	◇事務パソコン入替　◇中長期修繕計画策定に関する CM 業務
大　　学	◇事務パソコン入替　◇体育学部総合体育館トレーニングルーム機器入替　◇体育学部テニスコートフェンス構築　◇親里ホッケー場更新第 1 期工事　◇研究棟南面外壁、屋根塗装工事　◇ラグビー寮耐震診断　◇第 3 心光館シャワー室改修工事　◇CALL 教室等機器入替　◇杣之内第 1 体育館屋根シール打替工事　◇ 2 号棟机入替購入
図 書 館	◇建物耐震診断　◇特別本「谷川家旧蔵上田秋成資料 31 点」「世界言語誌宝典」購入　◇「浴恩園真景図/下巻」巻子修理
参 考 館	◇楽浪墓出土銅甑・銅鍑の保存処理　◇宮崎県持田古墳群出土馬具類の保存修復　◇資産管理システム導入
高等学校	◇本校舎耐震補強及び改修工事　◇図書館棟電気室更新工事　◇プール改修工事　◇第 4 別館耐震診断　◇火水風寮耐震診断　◇第 1 コンピュータ教室機器入替　◇天理教語学院南側塀改修工事　◇みのり寮分寮改修工事　◇農事部食堂空調工事

施　　設	内　　容
中 学 校	◇パーティション設置工事
小 学 校	◇コンピュータ教室機器入替　◇自動火災報知設備（受信機）更新工事　◇プール塀更新工事

資金支出は合計で 146 億 3249 万円となり、そのうち翌年度繰越支払資金は 65 億 2475 万円となりました。

【用語（科目）の説明】

資金収入の部

① 学生生徒等納付金収入･･･ 授業料、入学金、実験実習料、教育設備充実費、施設等利用料給付費等

② 手数料収入 ･････････････ 入学検定料、試験料、証明手数料等

③ 寄付金収入 ･････････････ 宗教法人天理教よりの回付金、使途指定寄付金、一般寄付金等

④ 補助金収入 ･････････････ 私立大学等経常費補助金、奈良県私立学校経常費補助金等

⑤ 資産売却収入 ･････････ 固定資産の売却収入、有価証券の売却収入

⑥ 付随事業・収益事業収入･ 預り保育料、図書館・参考館の事業収入、受託事業収入

⑦ 受取利息・配当金収入･･･ 預金、有価証券等の利息、配当金等

⑧ 雑収入 ･･････････････････ 施設設備の賃貸料収入、私立大学退職金財団等交付金収入、その他の雑収入

⑨ 借入金等収入 ･････････ 日本私立学校共済・振興事業団、金融機関等よりの借り入れ収入

⑩ 前受金収入 ･････････････ 翌年度入学の学生、生徒等に係る学生生徒等納付金収入

⑪ その他の収入 ･････････ 引当特定資産の取崩収入、前会計年度末における未収入金の当該会計年度における収入、
預り金収支を純額で表示し、預り金支払額を超える預り金受入収入
その他仮払金等収支を純額で表示し、支払額を超えた場合の回収収入

⑫ 資金収入調整勘定 ･･････ 当該会計年度期末における未収入金、前会計年度の前受金

資金支出の部

① 人件費支出 ･････････････ 教員・職員に支給する本俸、期末手当及びその他の手当並びに所定福利費、役員報酬、退職金

② 教育研究経費支出･･････ 教育研究のために要する経費

③ 管理経費支出･････････ 教育研究経費以外の経費

④ 借入金等利息支出･･････ 借入金に係る利息支出

⑤ 借入金等返済支出･･････ 借入金の返済支出

⑥ 施設関係支出･････････ 土地、建物、構築物等固定資産取得のための支出（資産運用目的のための取得を除く）

⑦ 設備関係支出･････････ 耐用年数が 1 年以上の 10 万円以上の備品、長期間にわたって使用保存する書籍等、
車両の取得のための支出

⑧ 資産運用支出･････････ 有価証券購入のための支出、引当特定資産への繰入支出

⑨ その他の支出･････････ 前会計年度末における未払金の当該会計年度における支出
預り金収支を純額で表示し、預り金受入額を超える預り金支出
仮払金収支を純額で表示し、仮払金の回収額を超える仮払金支出

⑩ 資金支出調整勘定･･････ 当該会計年度期末における未払金、前会計年度末における前払金

◈ 活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書は、資金収支を「教育活動」「施設整備等活動」「その他の活動」に区分し、活動区分ごとの収入、支出及び収支差額を表示することで資金の流れを明らかにするものです。「教育活動による資金収支」では、学校法人の本業である教育活動によりどれだけの資金が獲得できたのかがわかります。「施設整備等活動による資金収支」では、当年度に施設関係、設備関係の取得がどのぐらいあったのか、財源が何であったのかがわかります。「教育活動」と教育活動をインフラ面から支える「施設整備等活動」の資金収支差額の合計は学校法人の活動における中心的な収支内容を明らかにします。また、「その他の活動による資金収支」では、借入金の状況、資金運用の状況等、主に財務活動について把握することができます。

（単位：千円）

教育活動による資金収支			
収　　入		支　　出	
科　　目	金　額	科　　目	金　額
学生生徒等納付金収入	3,742,166	人件費支出	5,329,856
手数料収入	65,983	教育研究経費支出	1,387,822
特別寄付金収入	2,236,067	管理経費支出	302,164
一般寄付金収入	15,601		
経常費補助金収入	1,217,977		
付随事業収入	20,705		
雑収入	254,611		
教育活動資金収入計(A)	7,553,110	教育活動資金支出計(B)	7,019,842
		差引(A-B=C)	533,268
		調整勘定等(D)	578,322
		教育活動資金収支差額(C+D=①)	1,111,590

施設設備等活動による資金収支			
収　　入		支　　出	
科　　目	金　額	科　　目	金　額
施設設備寄付金収入	120,533	施設関係支出	410,776
施設設備補助金収入	256,328	設備関係支出	208,270
施設設備売却収入	100	校舎等建設引当特定資産繰入収入	33,642
施設整備等活動資金収入計(a)	376,961	施設整備等活動資金支出計(b)	652,688
		差引(a-b=c)	△ 275,727
		調整勘定等(d)	△ 320,733
		施設整備等活動資金収支差額(c+d=②)	△ 596,460

小計（教育活動資金収支差額＋施設設備等活動資金収支差額）(①＋②＝③)	515,130

その他の活動による資金収支			
収　　入		支　　出	
科　　目	金　額	科　　目	金　額
借入金等収入	500,000	第３号基本金引当特定資産繰入支出	103,824
第３号基本金引当特定資産取崩収入	100,000	退職給与引当特定資産繰入支出	113,449
退職給与引当特定資産取崩収入	100,000	修学旅行費等預り預金への繰入支出	6,901
退職資金特定資産取崩収入	13,450	小計	224,174
預り金受入収入	604	過年度修正支出	760
修学旅行費等預り金受入収入	6,901	その他の活動資金支出計（イ）	224,934
立替金回収収入	691	差引（アーイ＝ウ）	523,833
小計	721,646	調整勘定等（エ）	0
受取利息・配当金収入	25,413	その他の活動資金収支差額（ウ＋エ＝④）	523,833
過年度修正収入	1,708		
その他の活動資金収入計（ア）	748,767		

支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）（③＋④）	1,038,963
前年度繰越支払資金	5,485,790
翌年度繰越支払資金	6,524,753

令和元年度決算では、教育活動資金収支差額は 11 億 1159 万円の収入超過、施設設備等活動資金収支差額は 5 億 9646 万円の支出超過になり、教育活動資金収支差額と施設設備等活動資金収支差額の合計は 5 億 1513 万円の収入超過になりました。また、その他の活動資金収支差額は 5 億 2383 万円の収入超過になっています。これらにより、翌年度繰越支払資金は 10 億 3896 万円増額し、65 億 2475 万円となりました。

◈ 事業活動収支計算

事業活動収支計算は、当該会計年度の負債とならない収入から基本金組入額（教育・研究を継続的に維持向上させていくために必要な土地、建物、機器備品、図書等を取得した金額＝資産）を差し引いた事業活動収入と資産の消費や用役の対価である事業活動支出とで計算されます。したがって、資金収入には含まれない現物寄付を事業活動収入に加え、固定資産の利用を耐用年数期間での消費と認識した減価償却額は事業活動支出に該当します。また、教職員の将来の退職時に支給される退職金は用役の対価と認識され、退職給与引当金繰入額も事業活動支出に含まれます。さらに、事業活動収入及び事業活動支出は経常的活動と臨時的活動（特別活動）に区分し、経常的活動を教育研究に係る活動と教育活動外（財務活動・収益事業活動）に区分して、その収支状況を明らかにします。これら３区分の収支差額を合計し、基本金組入前の当年度収支差額を計算します。ここから基本金組入額を控除した当年度収支により事業活動収入と事業活動支出の均衡の状態が明らかにされ、学校法人の経営の状況を示すことになります。

事業活動収支は企業会計における損益計算の仕組みに類似しています。（損益計算書では計上されない資本的支出が、事業活動収支計算書では基本金組入額として計上されている点が主な相違点です。）学校法人は企業と異なり収益の獲得を目的とするものではありませんので、学校法人会計には損益の計算という概念はありません。教育研究内容に見合った適正な収入を得て、教育研究活動の機会と場を永続的に提供することを目的としています。事業活動収支計算の事業活動収入と事業活動支出が長期的にはつり合い、

必要な資産が維持されることが健全な学校経営として望まれるところです。

（単位：千円）

		科　目	予　算	決　算	差　異
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	3,759,836	3,742,166	17,670
		手数料	64,952	65,983	△ 1,031
		寄付金	2,249,100	2,254,034	△ 4,934
		経常費等補助金	1,249,015	1,217,977	31,038
		付随事業収入	19,930	20,705	△ 775
		雑収入	250,366	254,611	△ 4,245
		教育活動収入計	7,593,199	7,555,476	37,723
		科　目	予　算	決　算	差　異
	事業活動支出の部	人件費	5,329,264	5,343,306	△ 14,042
		教育研究経費	2,099,809	2,101,047	△ 1,238
		管理経費	329,671	343,833	△ 14,162
		徴収不能額等	0	92	△ 92
		教育活動支出計	7,758,744	7,788,278	△ 29,534
	教育活動収支差額		△ 165,545	△ 232,802	67,257
教育活動外収支		科　目	予　算	決　算	差　異
	事業活動収入の部	受取利息・配当金	21,701	25,413	△ 3,712
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	21,701	25,413	△ 3,712
		科　目	予　算	決　算	差　異
	事業活動支出の部	借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額		21,701	25,413	△ 3,712
経常収支差額			△ 143,844	△ 207,389	63,545
特別収支		科　目	予　算	決　算	差　異
	事業活動収入の部	資産売却差額	0	100	△ 100
		その他の特別収入	282,580	393,664	△ 111,084
		特別収入計	282,580	393,764	△ 111,084
		科　目	予　算	決　算	差　異
	事業活動支出の部	資産処分差額	13,280	93,063	△ 79,783
		その他の特別支出	600	761	△ 161
		特別支出計	13,880	93,824	△ 79,944
	特別収支差額		268,700	299,940	△ 31,240
基本金組入前当年度収支差額			124,856	92,551	32,305
基本金組入額合計			△ 301,600	△ 148,280	△ 153,320
当年度収支差額			△ 176,744	△ 55,729	△ 121,015

前年度繰越収支差額	△ 11,992,885	△ 11,582,837	△ 410,048
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△ 12,169,629	△ 11,638,566	△ 531,063

（参考）

事業活動収入計	7,897,480	7,974,653	△ 77,173
事業活動支出計	7,772,624	7,882,102	△ 109,478

【用語（科目）の説明】

教育活動収支

① 学生生徒等納付金 ····· 授業料、入学金、実験実習料、維持費、教育設備充実費等 、施設等利用給付費等

② 手数料 ····· 入学検定料、試験料、証明手数料等

③ 寄付金 ····· 宗教法人天理教よりの回付金、使途指定寄付金、一般寄付金及び現物寄付受領額（施設設備寄付金を除く）

④ 経常費等補助金 ····· 私立大学等経常費補助金、奈良県私立学校経常費補助金等（施設整備補助金を除く）

⑤ 付随事業収入 ····· 預り保育料、図書館・参考館の事業収入。受託事業収入

⑥ 雑収入 ····· 施設設備の賃貸料収入、私立大学退職金財団等交付金収入、その他の雑収入

⑦ 人件費 ····· 教員・職員に支給する本俸、期末手当及びその他の手当並びに所定福利費役員報酬、退職給与引当金組入額

⑧ 教育研究経費 ····· 教育研究のために要する経費及び教育研究用減価償却資産の減価償却額

⑨ 管理経費 ····· 教育研究経費以外の経費及び教育研究用以外の減価償却資産の減価償却額

⑩ 徴収不能額等 ····· 回収不能が確実となった未収入金等の金銭債権額

教育活動外収支

① 受取利息・配当金 ····· 預金、有価証券等の利息、配当金等

② その他の教育活動外収入 ·· 受取利息・配当金以外の教育活動外収入

③ 借入金等利息 ····· 借入金に係る利息支出

④ その他の教育活動外支出 ·· 借入金等利息以外の教育活動外支出

特別収支

① 資産売却差額 ····· 資産売却収入がその帳簿残高を超えた場合の超過額

② その他の特別収入 ····· 施設設備拡充のための寄付金、施設設備の現物寄付受領額、施設設備拡充のための補助金過年度修正による当年度収入

③ 資産処分差額 ····· 固定資産を廃棄した場合の除却損

④ その他の特別支出 ····· 過年度修正による当年度支出、災害損失

基本金組入額合計 ····· 学校法人が、その諸活動の計画に基づき必要な資産を保持するために維持すべきものとして、当該年度に組み入れた基本金額（固定資産、奨学基金等）

教育活動収支では、教育活動収入計が予算比 0.5%減の 75 億 5548 万円（前年度 4.5%〈3 億 5477 万円〉の減）となり、教育活動支出計が予算比 0.4%増の 77 億 8828 万円（前年度 4.6%〈3 億 7491 万円〉の減）となりました。人件費には退職給与引当金繰入額 3 億 7280 万円を含み、資金収支計算での人件費支出との差額は 1345 万円となっています。教育研究経費に 6 億 3937 万円、管理経費に 2798 万円の減価償却費を含んでいます。教育活動収支

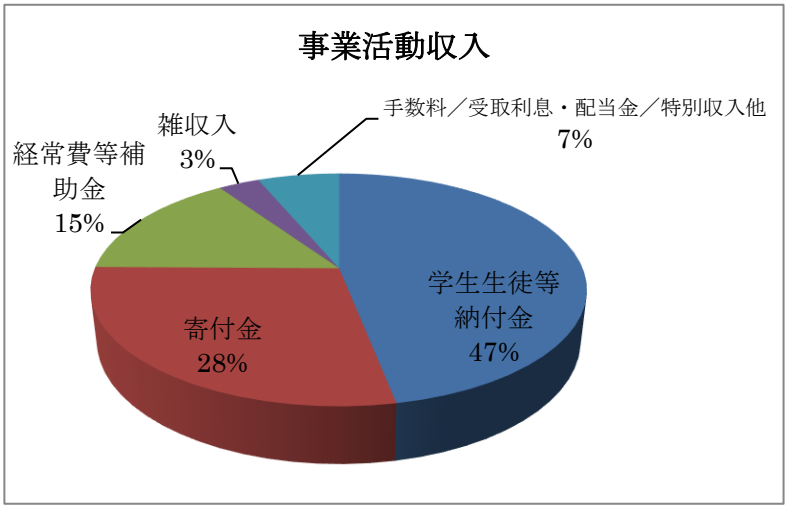
差額は予算比 40.6%減の 2 億 3280 万円の支出超過となっています。

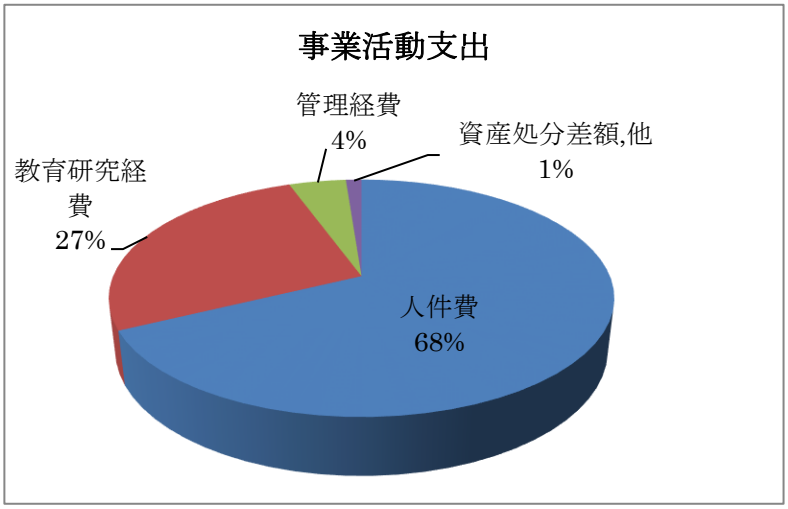
教育活動外収支では、教育活動外収入計が予算比 17.1%増の 2541 万円（前年度 19.4%〈413 万円〉の増）となりました。借入金等利息はないので教育活動外支出はありません。教育活動外収支差額は予算に対して 371 万円の増額となり、教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合計した経常収支差額は 2 億 739 万円の支出超過となりました。

特別収支では、特別収入計が予算比 39.3%増の 3 億 9376 万円（前年度 48.1%〈4 億 2456 万円〉の減）となり、特別支出計が予算比 676.0%増の 9382 万円（前年度 75.0%〈3128 万円〉の減）となりました。その他の特別収入に現物寄付として大学後援会等より図書の受贈、文部科学省科学研究費補助金による備品購入等、計 1319 万円を計上しています。特別収支差額は予算比 11.6%増の 2 億 9994 万円の収入超過となりました。

当該会計年度の事業活動収入計と事業活動支出計の差額（基本金組入前当年度収支差額）は 9255 万円の収入超過となり、基本金組入額合計 1 億 4828 万円（予算比 49.2%減）を控除した当年度収支差額は 5573 万円の支出超過（前年度は 2 億 899 万円の収入超過）となりました。前年度繰越収支差額を加えた翌年度繰越収支差額は 116 億 3857 万円となりました。

《事業活動収入及び事業活動支出の構成比》





貸借対照表

貸借対照表は、当法人の財政状態を明示するために、年度末に保有するすべての、資産、負債、基本金および繰越収支差額を前会計年度末の額と比較して一覧表示したものです。資産の部は、貸借対照表の借方に表示され、学校法人天理大学に投入された資金がどのように使われているかを表示します。貸方に表示される負債の部、純資産の部はその資産が他人の資金（負債）によって賄われているか、自己資金（基本金、繰越収支差額）で賄われているか、すなわち資金の源泉を表示しています。

企業会計でいう資本という概念がないので、基本金の部（基本金として組み入れている資産）と繰越収支差額（事業活動収支計算において事業活動収入から基本金組入額を控除し、事業活動支出を差し引いた差額の会計年度末までの累計額）が貸方に計上されることが企業会計のものと異なる点です。

記載金額は期末時点の財産価値ではなく取得した当初の価額を基準としています（取得原価基準）。また、時の経過によりその価値を減少させる固定資産（建物、機器備品等）の貸借対照表計上額は、減価償却をおこなった後の金額となります。

（単位：千円）

●資産の部

科　　目	本　年　度　末	前　年　度　末	増　　減
固定資産	26,726,758	26,901,368	△ 174,610
有 形 固 定 資 産	24,679,082	24,891,158	△ 212,076
特定資産	1,524,297	1,486,831	37,466
その他の固定資産	523,379	523,379	0
流動資産	7,193,171	6,632,803	560,368
資産の部合計	33,919,929	33,534,171	385,758

●負債の部

科　　目	本　年　度　末	前　年　度　末	増　　減
固定負債	2,161,391	2,667,942	△ 506,551
流動負債	2,486,965	1,687,207	799,758
負債の部合計	4,648,356	4,355,149	293,207

●純資産の部

科　　目	本　年　度　末	前　年　度　末	増　　減
基本金	40,910,139	40,761,859	148,280
第１号基本金	40,098,451	39,953,995	144,456
第３号基本金	246,688	242,864	3,824
第４号基本金	565,000	565,000	0
繰越収支差額	△ 11,638,566	△ 11,582,837	△ 55,729
純資産の部合計	29,271,573	29,179,022	92,551
負債及び純資産の部合計	33,919,929	33,534,171	385,758

【用語（科目）の説明】

① 固定資産 …… 有形固定資産：土地、建物、構築物、機器備品、図書、車両、建設仮勘定
特定資産：第３号基本金引当特定資産、退職給与引当特定資産、退職資金特定資産、校舎等建設引当特定資産
その他の固定資産：電話加入権、有価証券、敷金・保証金

② 流動資産 …… 現金預金、修学旅行等預り預金、未収入金、立替金、前払金、仮払金、貯蔵品

③ 固定負債 …… 長期借入金、長期未払金、退職給与引当金

④ 流動負債 …… 短期借入金、未払金、前受金、預り金、修学旅行費等預り金

⑤ 基本金 …… 第１号基本金：土地、建物、構築物、機器備品、図書、車輌等の教育研究に必要な資産を自己資金で取得した総額
第２号基本金：固定資産を取得するために留保した預金などの資産の額
第３号基本金：天理大学ふるさと会海外研修基金、果実を学生の海外研修費用の一部に充当
天理大学ふるさと会奨学基金、果実を学生の奨学金に使用
第４号基本金：学校法人が円滑な運営を行うために必要な運転資金の額

⑥ 繰越収支差額 …… 当年度以前の各年度の事業活動収入から基本金組入額合計を控除し、事業活動支出を差し引いた差額の累計額

資産の部では、有形固定資産が施設設備の更新、受贈等による増加と資産の除却による減少及び減価償却額を差し引いて、前年度末から 2 億 1208 万円減額しています。有形固定資産の減少には、大学の言語教育研究センター廃止等に伴う図書の除籍 17,124 冊 7124 万円および中学校蔵書点検による除籍 6,488 冊 1027 万円が含まれます。特定資産は、第３号基本金引当特定資産の繰り入れと校舎等建設引当資産の繰り入れにより 3747 万円増額しています。その他の固定資産は増減なく前年度末と同額となります。流動資産は現預金、修学旅行等費預り預金、仮払金、貯蔵品が増額し、未収入金、立替金、前払金が減額したことにより差引 5 億 6037 万円の増額となりました。資産の部合計では差引 3 億 8576 万円増の 339 億 1993 万円となりました。

負債の部では長期借入金、長期未払金、未払金、前受金が減額し退職給与引当金、短期借入金、預り金、修学旅行費等預り金が増額しましたので 2 億 9321 万円増の 46 億 4836 万円となっています。純資産の部では、基本金が 1 億 4828 万円の基本金組み入れを行い総額 409 億 1014 万円となりました。繰越収支差額は事業活動収支計算の翌年度繰越収支差額と同額の 116 億 3857 万円の支出超過となっています。資産の部合計から負債の部合計を差し引いた純資産の部（正味財産）は 292 億 7157 万円となりました。

（3）経年比較

財務状況について、収支計算書及び貸借対照表の大科目又は主な科目の過去 5 年間の推移を記載します。

（単位：千円）

資金収支計算書					
●収入の部					
科　　目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
学生生徒等納付金収入	3,673,659	3,657,481	3,557,440	3,675,416	3,742,166
手数料収入	70,616	66,501	69,884	69,051	65,983
寄付金収入	2,644,668	2,618,825	2,723,025	2,719,284	2,372,201
補助金収入	1,145,208	1,139,282	1,215,465	1,980,554	1,474,305
資産売却収入	100,077	1,709	0	0	100
付随事業・収益事業収入	14,613	14,334	14,127	19,495	20,705
受取利息・配当金収入	29,779	24,804	20,775	21,283	25,413
雑収入	406,336	253,856	333,090	248,193	256,319
借入金等収入	0	0	0	1,700,000	500,000
前受金収入	485,180	483,241	516,260	493,130	478,050
その他の収入	1,271,955	886,650	502,951	469,177	1,143,232
資金収入調整勘定	△ 938,514	△ 668,948	△ 781,574	△ 1,437,847	△ 931,776
前年度繰越支払資金	5,120,265	4,733,346	4,595,396	5,334,537	5,485,790
収入の部合計	14,023,842	13,211,081	12,766,839	15,292,273	14,632,488

●支出の部					
科　　目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
人件費支出	5,790,832	5,464,045	5,614,216	5,568,668	5,329,856
教育研究経費支出	1,302,203	1,353,114	1,250,050	1,580,908	1,387,822
管理経費支出	370,250	340,521	314,332	320,424	302,924
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	279,668	382,952	204,170	1,609,176	410,776
設備関係支出	207,666	328,507	185,563	332,886	208,270
資産運用支出	700,488	404,404	277,325	326,186	250,915
その他の支出	1,610,411	982,332	660,193	1,086,105	1,024,838
資金支出調整勘定	△ 971,022	△ 640,190	△ 1,073,547	△ 1,017,871	△ 807,666
翌年度繰越支払資金	4,733,346	4,595,396	5,334,537	5,485,791	6,524,753
支出の部合計	14,023,842	13,211,081	12,766,839	15,292,273	14,632,488

（単位：千円）

事業活動収支計算書							
教育活動収支	事業活動収入の部	科　　目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
		学生生徒等納付金	3, 673, 659	3, 657, 481	3, 557, 440	3, 675, 416	3, 742, 166
		手数料	70, 616	66, 501	69, 884	69, 051	65, 983
		寄付金	2, 632, 860	2, 618, 515	2, 707, 525	2, 660, 370	2, 254, 034
		経常費等補助金	1, 145, 208	1, 139, 282	1, 215, 465	1, 240, 443	1, 217, 977
		付随事業収入	14, 613	14, 334	14, 127	19, 495	20, 705
		雑収入	405, 830	249, 318	332, 466	245, 468	254, 611
		教育活動収入計	7, 942, 786	7, 745, 431	7, 896, 907	7, 910, 243	7, 555, 476
	事業活動支出の部	科　　目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
		人件費	5, 779, 940	5, 434, 782	5, 605, 996	5, 507, 960	5, 343, 306
		教育研究経費	1, 981, 942	2, 054, 702	1, 947, 326	2, 294, 521	2, 101, 047
		管理経費	406, 520	379, 207	353, 153	360, 646	343, 833
		徴収不能額等	0	0	1, 710	60	92
		教育活動支出計	8, 168, 402	7, 868, 691	7, 908, 185	8, 163, 187	7, 788, 278
	教育活動収支差額		△ 225, 616	△ 123, 260	△ 11, 278	△ 252, 944	△ 232, 802
教育活動外収支	事業活動収入の部	科　　目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
		受取利息・配当金	29, 779	24, 804	20, 775	21, 283	25, 413
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	29, 779	24, 804	20, 775	21, 283	25, 413
	事業活動支出の部	科　　目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
		借入金等利息	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0	0	0
	教育活動外収支差額		29, 779	24, 804	20, 775	21, 283	25, 413
経常収支差額			△ 195, 837	△ 98, 456	9, 497	△ 231, 661	△ 207, 389
特別収支	事業活動収入の部	科　　目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
		資産売却差額	77	26	0	0	100
		その他の特別収入	23, 564	19, 964	38, 387	818, 328	393, 664
		特別収入計	23, 641	19, 990	38, 387	818, 328	393, 764
	事業活動支出の部	科　　目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
		資産処分差額	24, 899	10, 569	72, 122	124, 847	93, 063
		その他の特別支出	0	416	37	254	761
		特別支出計	24, 899	10, 985	72, 159	125, 101	93, 824
	特別収支差額		△ 1, 258	9, 005	△ 33, 772	693, 227	299, 940
基本金組入前当年度収支差額			△ 197, 095	△ 89, 451	△ 24, 275	461, 566	92, 551

基本金組入額合計	△ 310,202	△ 441,632	△ 67,923	△ 252,580	△ 148,280
当年度収支差額	△ 507,297	△ 531,083	△ 92,198	208,986	△ 55,729
前年度繰越収支差額	△11,040,820	△11,548,117	△11,994,200	△11,791,823	△11,582,837
基本金取崩額	0	85,000	294,575	0	0
翌年度繰越収支差額	△11,548,117	△11,994,200	△11,791,823	△11,582,837	△11,638,566

（参考）

事業活動収入計	7,996,206	7,790,225	7,956,069	8,749,854	7,974,653
事業活動支出計	8,193,301	7,879,676	7,980,344	8,288,288	7,882,102

（単位：千円）

貸借対照表

●資産の部

科　　目	平成 27 年度末	平成 28 年度末	平成 29 年度末	平成 30 年度末	令和元年度末
固定資産	26,092,603	26,073,213	25,654,101	26,901,368	26,726,758
有形固定資産	24,231,492	24,207,692	23,811,255	24,891,158	24,679,082
特定資産	1,437,740	1,442,144	1,419,468	1,486,831	1,524,297
その他の固定資産	423,371	423,377	423,378	523,379	523,379
流動資産	5,432,782	4,995,854	5,865,430	6,632,803	7,193,171
資産の部合計	31,525,385	31,069,067	31,519,531	33,534,171	33,919,929

●負債の部

科　　目	平成 27 年度末	平成 28 年度末	平成 29 年度末	平成 30 年度末	令和元年度末
固定負債	986,133	956,871	948,650	2,667,942	2,161,391
流動負債	1,708,070	1,370,465	1,853,425	1,687,207	2,486,965
負債の部合計	2,694,203	2,327,336	2,802,075	4,355,149	4,648,356

●純資産の部

科　　目	平成 27 年度末	平成 28 年度末	平成 29 年度末	平成 30 年度末	令和元年度末
基本金	40,379,300	40,735,931	40,509,280	40,761,859	40,910,139
第１号基本金	39,587,167	40,028,781	39,734,206	39,953,995	40,098,451
第３号基本金	142,133	142,150	210,074	242,864	246,688
第４号基本金	650,000	565,000	565,000	565,000	565,000
繰越収支差額	△11,548,118	△11,994,200	△11,791,824	△11,582,837	△11,638,566
純資産の部合計	28,831,182	28,741,731	28,717,456	29,179,022	29,271,573
負債及び純資産の部合計	31,525,385	31,069,067	31,519,531	33,534,171	33,919,929

（4）主な財務比率の推移

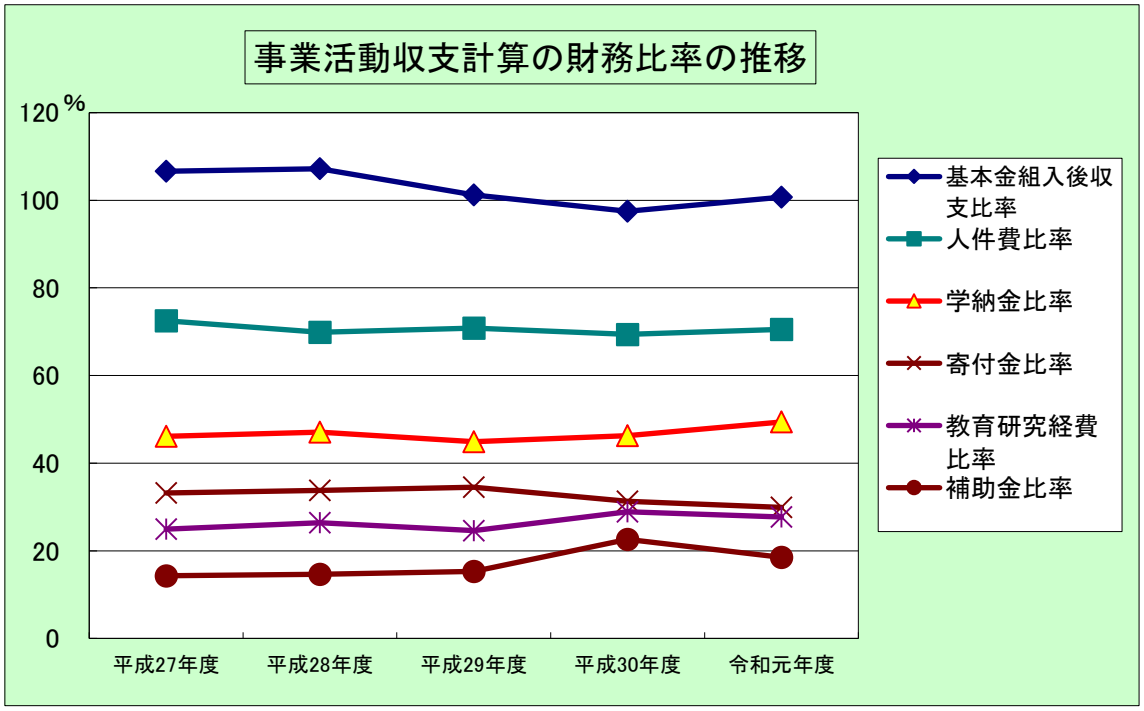
主な事業活動収支計算書関係比率と貸借対照表関係比率の過去 5 年間の推移を掲載し、一部の比率についてグラフにより概要を説明します。なお、財務比率の算式は日本私立学校振興・共済事業団が提示したものを使用しています。

（単位：%）

事業活動収支計算書関係比率	算式　（×100）	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
人件費比率	人件費 / 経常収入	72.5	69.9	70.8	69.4	70.5
人件費依存率	人件費 / 学生生徒等納付金	157.3	148.6	157.6	149.9	142.8
教育研究費比率	教育研究経費 / 経常収入	24.9	26.4	24.6	28.9	27.7
管理経費比率	管理経費 / 経常収入	5.1	4.9	4.5	4.5	4.5
借入金等利息比率	借入金等利息 / 経常収入	0	0	0	0	0
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額 / 事業活動収入	△2.5	△1.1	△0.3	5.3	1.2
基本金組入後収支比率	事業活動支出 / 事業活動収入－基本金組入額	106.6	107.2	101.2	97.5	100.7
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 / 経常収入	46.1	47.1	44.9	46.3	49.4
寄付金比率	寄付金 / 事業活動収入	33.2	33.8	34.5	31.3	29.9
補助金比率	補助金 / 事業活動収入	14.3	14.6	15.3	22.6	18.5
基本金組入率	基本金組入額 / 事業活動収入	3.9	5.7	0.9	2.9	1.9
経常収支差額比率	経常収支差額 / 経常収入	△2.5	△1.3	0.1	△2.9	△2.7
教育活動収支差額比率	教育活動収支差額 / 教育活動収入計	△2.8	△1.6	△0.1	△3.2	△3.1

「経常収入」＝教育活動収入計＋教育活動外収入計　　「経常支出」＝教育活動支出計＋教育活動外支出計

貸借対照表関係比率	算式　（×100）	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
固定資産構成比率	固定資産 / 総資産	82.8	83.9	81.4	80.2	78.8
純資産構成比率	純資金 / 総負債＋純資産	91.5	92.5	91.1	87.0	86.3
固定比率	固定資産 / 純資産	90.5	90.7	89.3	92.2	91.3
固定長期適合率	固定資産 / 純資産＋固定負債	87.5	87.8	86.5	84.5	85.0
流動比率	流動資産 / 流動負債	318.1	364.5	316.5	393.1	289.2
総負債比率	総負債 / 総資産	8.5	7.5	8.9	13.0	13.7
基本金比率	基本金 / 基本金要組入額	100.0	100.0	99.6	97.3	96.5



基本金組入後収支比率は 100%を上回り、令和元年度では 100.7 ポイントとなりました。人件費比率は平成 27 年度から横ばい状態で、前年度から 1.1 ポイント上がりました。学生生徒等納付金比率（学納金比率）は学納金改定により 3.1 ポイント上がり、寄付金比率は 1.4 ポイント下がりました。教育研究経費比率は 1.2 ポイント下がりました。補助金収入が、耐震補強改築関係補助金が減額となったため、補助金比率は 4.1 ポイント下がりました。